



PIP[®] (Partner Interface Process)
インプリメンテーションガイドライン

V01.00.00
2004.04.01

RosettaNet Japan OMJ BMA-SWG Phase2

本ガイドラインの取扱いについて (Document Management)

1. 免責 (Legal Disclaimer)

ロゼッタネットジャパン及びその役員、従業員、会員企業・団体及びその役員、従業員は、本文書の利用によって生じた損害について、直接的、間接的を問わず、また特別な損害、必然的な損害であると問わず、一切の責を負いません。

2. 著作権 (Copyright)

©2004 RosettaNet Japan. All rights reserved.

本文書は、ロゼッタネットジャパンの許可なく、本文書の内容、電子的媒体、ファイルフォーマットを改変することを禁じます。

3. 商標 (Trademarks)

RosettaNet Partner Interface Process、PIP および RosettaNet ロゴは、非営利組織「RosettaNet」の商標または登録商標です。その他の製品名および企業のロゴは、それらの所有者の商標です。本書では、商標または登録商標として認知された表記について言及する場合、その表記が最初に登場した箇所のできる限り適切な確認を行うようにしました。

4. 謝辞 (Acknowledgements)

本ガイドライン作成に協力いただき、貴重な情報をご提供いただいた企業及びご担当者の方に感謝いたします。

本ガイドラインは、RNJ OMJ BMA SWG 参加企業(日本電気、NTTコミュニケーションズ、沖電気工業、京セラ、ソニー、タイコエレクトロニクスアンプ、日立製作所、富士通、モトローラ)の協力のもと作成されました。各社の貢献に敬意を表します。なお、本誌作成に参画した企業・担当者名は下記の通りです。(順不同)

ソニーイーエムシーエス(株)	野村 茂徳 、 村田 大宗
ソニーグローバルソリューションズ(株)	和田 幸一郎
富士通株式会社	東海枝 隆志 、 今村 栄太
京セラ株式会社	吉原 哲朗 、 波多野 弘章
日本電気(株)	清水 真梨 、 外崎 由美子
(株)日立製作所	東谷 敬一郎 、 松倉 俊治
モトローラ株式会社	佐々井 達也 、 松島 伸彰
タイコエレクトロニクスアンプ(株)	敵狭 克弥 、 東 公成

5. 文書更新履歴 (Document Version History)

版数		備考
V01.00.00	2004/04/01	初版

- 目次 -

序章

1. 背景.....	4
2. 本書の位置づけ.....	4

本章

1. はじめに(Introduction).....	5
1.1 BMA SWG Phase2 のスコープ.....	5
1.2 ビジネスモデル.....	6
1.3 ビジネスプロセスパターン.....	9
2. PIP 使用上の注釈(PIP Usage Notes).....	11
2.1 各 PIP 共通の使用上の注釈.....	11
2.1.1 エレメントに設定する項目について.....	11
2.1.2 PIP 中の全角文字使用について.....	11
2.1.3 不要項目の扱いについて.....	11
2.1.4 PIP の必須項目について.....	11
2.1.5 品名・品名コードなどを入れる項目について.....	12
2.1.6 2 次情報タグについて.....	12
2.2 セグメント 3A 使用上の注釈.....	12
2.2.1 セグメント 3A 使用上のルール.....	12
2.2.2 PIP3A4: Request Purchase Order.....	16
2.2.3 PIP3A7: Notify of Purchase Order Update.....	20
2.2.4 PIP3A8: Request Purchase Order Change.....	22
2.2.5 PIP3A9: Request Purchase Order Cancellation.....	26
2.3 セグメント 4A 使用上の注釈.....	28
2.3.1 セグメント 4A 使用上のルール.....	28
2.3.2 PIP4A1: Notify of Strategic Forecast.....	28
2.3.3 PIP4A3: Notify of Threshold Release Forecast.....	30
2.3.4 PIP4A4: Notify of Planning Release Forecast.....	32
2.3.5 PIP4A5: Notify of Forecast Reply.....	34
2.4 その他のセグメント.....	36
2.4.1 PIP3C7: Self-Billing Invoice Notification.....	36
2.4.2 PIP4B2: Notify of Shipment Receipt.....	38
2.4.3 PIP4C1: Distribute Inventory Report.....	39
3. 検証での変更内容 (Validation Modification).....	41
3.1 PIP3A4.....	41
3.2 PIP3A7.....	41
3.3 PIP3A8.....	41
3.4 PIP3A9.....	41

3.5	PIP3C7.....	41
3.6	PIP4A1.....	42
3.7	PIP4A3.....	42
3.8	PIP4A4.....	42
3.9	PIP4A5.....	42
3.10	PIP4B2.....	42
3.11	PIP4C1.....	42
4.	検証によって学んだこと(Lessons Learned).....	43
4.1	納期時刻を入力するフィールドの追加について.....	43
4.2	異なる国で製造される同一部品の表現.....	43
4.3	フォーキャスト期間ごとに設定される在庫関連情報について.....	43
5.	用語集(Glossary).....	44
	Appendix	45

序章

1. 背景

OMJ (Order Management in Japan) は、RosettaNet.org が、ロゼッタネット標準の実用化を推進するために、会員企業およびロゼッタネットジャパン (RosettaNet Japan 以下、RNJ) を始めとする各国・地域の Regional 組織と協同で推進している Milestone Program の一つであり、日本での電子部品の調達・販売プロセスに対してロゼッタネット標準の適用を推進することを目的としている。RNJ OMJ BMA は、OMJ を推進するために、2003 年 1 月に Phase2 が設置された RNJ OMJ WG 傘下の Sub WG である。

ロゼッタネットを実装する企業が増加するにつれ、ロゼッタネットで決めている PIP メッセージガイドラインの解釈が、企業により微妙に異なることが判明した。この点につき、複数の企業と接続している企業から、各社が意図的に変えている部分を除き、可能な限りマッピングを共通化して欲しいという意見が寄せられ、本活動が開始された。

2. 本書の位置づけ

本ガイドラインは、PIP の使い方、メッセージガイドラインの解釈、EIAJ-EDI の情報種のロゼッタネットへのインプリメンテーション等にあたり、各社の参考とすべく作成したものであり、マッピングを規定するものではない。参加企業で必要と判断した PIP について、その使い方、マッピングを整合した。手順としては以下の通りである。

参加企業の現状のマッピングポリシーを比較し、どのフィールドに何を記入すべきかをロゼッタネットメッセージガイドライン及び各社の考え方をもとに議論する。(この際、異なる PIP の間でも、同じ項目については整合が取れるよう考慮した。)

原則としてロゼッタネットメッセージガイドラインに準拠するが、必要に応じて RosettaNet.org への変更提案を行う。

上記 2 点をもとに、マッピングのガイドラインを作成する。

なお、マッピング表の中で記載のある箇所が、本 WG が各社共通化すべき項目として提案する部分である。グレーで網掛けされている箇所についてはオプション扱い、各社の判断で使用する項目とする。また、必要と思われる箇所については、議論の経緯などを解説として加えているので、ご参照いただきたい。

本ガイドラインが、ロゼッタネット実装の一助となれば幸いである。

本章

1. はじめに(Introduction)

1.1 BMA SWG Phase2 のスコープ

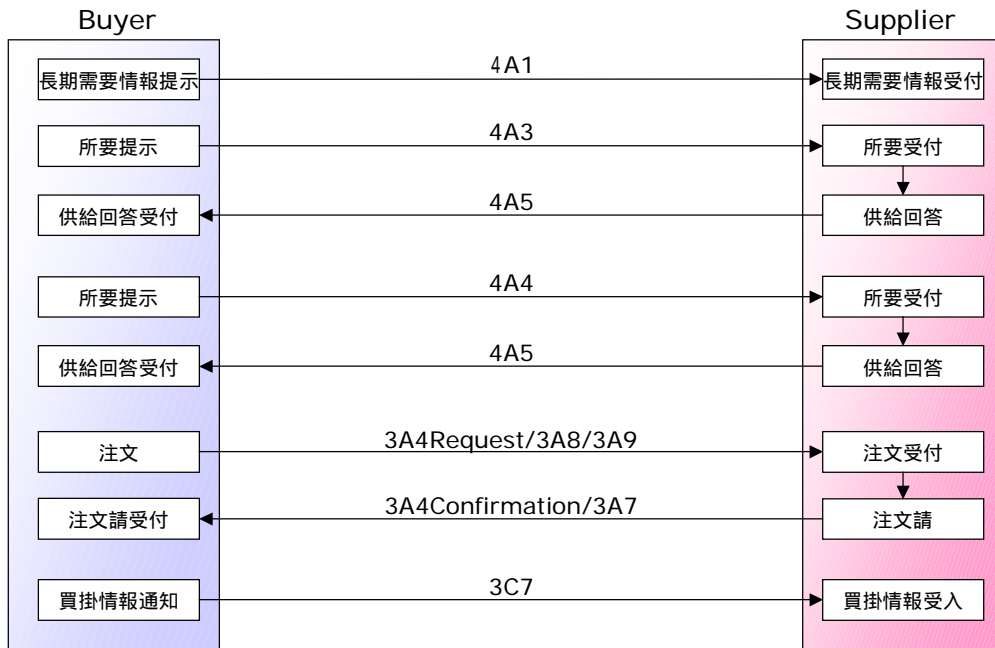
BMA SWG Phase2 では PIP へのマッピング共通化作業にあたり、各参加企業が実際に用いているビジネスモデルを持ち寄って比較検討を行った結果、複数の PIP の共通化が必要と判断した。以下に共通化が必要と判断した PIP の種類を示す。

PIP		Version
3A4	Request Purchase Order	V02_03_00
3A7	Notify of Purchase Order Update	V02_03_00
3A8	Request Purchase Order Change	V01_03_00
3A9	Request Purchase Order Cancellation	V01_01_00
3C7	Notify of Self-Billing Invoice	V01_00_00
4A1	Notify of Strategic Forecast	V02_00_00
4A3	Notify of Threshold Release Forecast	V02_01_00
4A4	Notify of Planning Release Forecast	V03_00_00
4A5	Notify of Forecast Reply	V02_00_00
4B2	Notify of Shipment Receipt	V01_00_00
4C1	Distribute Inventory Report	V02_03_00

1.2 ビジネスモデル

ビジネスモデルは参加企業間でそれぞれ異なっているため、一つのビジネスモデルとしてここに定義することはできない。しかし、各参加企業が用いているビジネスモデルを比較し、共通化できる箇所を抽出したものが下の図である。これはあくまでもビジネスモデルの一例であり、各参加企業のビジネスモデルについては Appendix に事例を挙げているのでそちらを参照されたい。

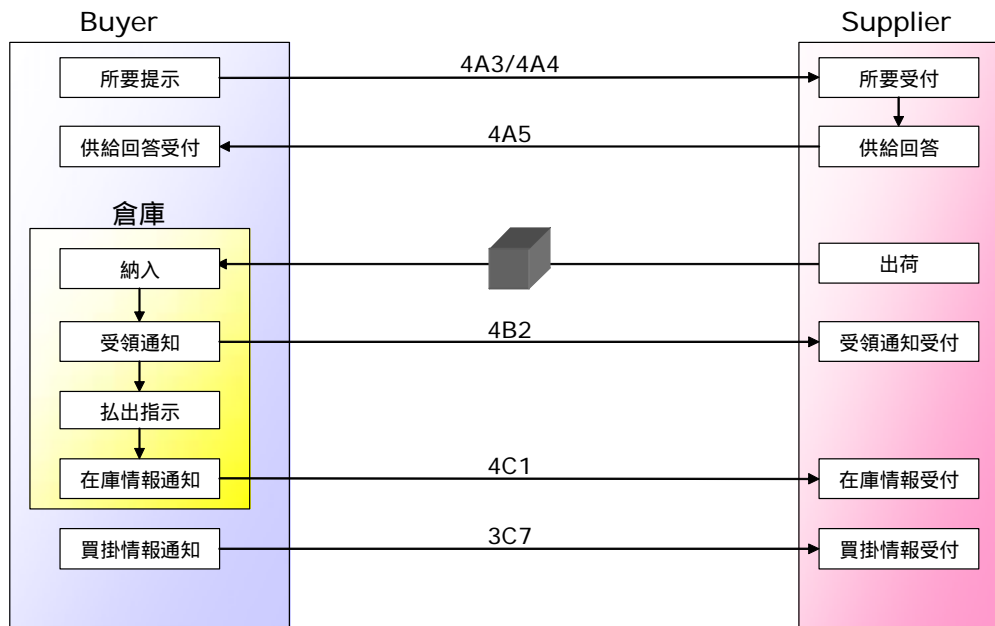
a) パターン A



所要提示/供給回答と注文から成る一般的な発注モデルの一例である。所要提示には PIP4A3 あるいは 4A4 を用いる。また、長期需要情報として PIP4A1 を発行するケースもある。注文フェーズには PIP3A4、3A8、3A7、3A9 を組み合わせ、買掛情報として PIP3C7 を用いてビジネスモデルを形成している。

所要提示の使い方 (PIP4A3/4A4) や注文プロセスの組み合わせ (PIP3A4、3A8、3A7、3A9) については、1.3 ビジネスプロセスパターンや Appendix の各社事例紹介を参照されたい。

b) パターン B



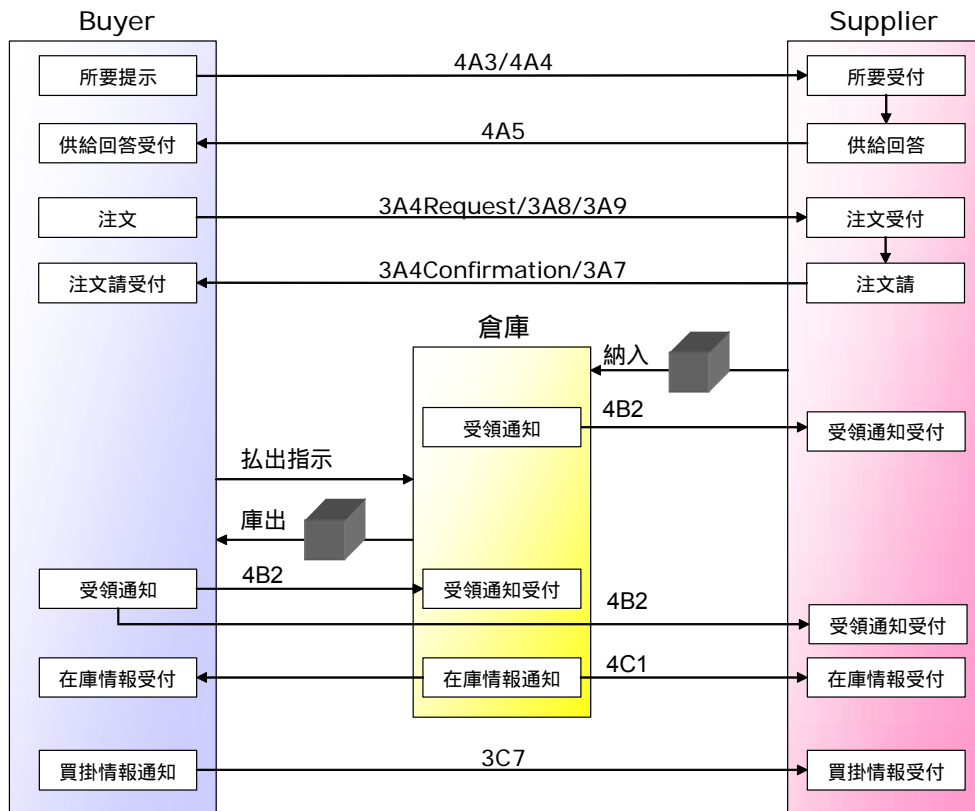
受注者が預託倉庫に自主的に在庫補充を行うビジネスモデルの一例である。発注者は注文を発行せず、必要な時に必要なだけ調達する。預託倉庫と受注者間の情報交換には受領通知 (PIP4B2)、在庫情報通知 (PIP4C1) を用いる。

このモデルの特徴は以下の通り。

- ・ 発注者は必要な時に必要なだけ調達することができ、目先の所要変動への柔軟な対応
- ・ 個別発注に従った納品ではなく、まとめて納品することによる物流コストの削減
- ・ オーダレス化による受発注管理工数の削減
- ・ 主に汎用品への適用 (注文による引取責任がないため)

参加企業の事例を Appendix 1.2 及び 2.1 に紹介しているので参考にされたい。

c) パターン C



所要提示と注文に基づき、受注者が自社または第三者倉庫へ必要在庫を補充するビジネスモデルの一例である。このモデルの特徴は以下の通り。

- ・ 受注者による在庫保有、直近の所要に従った細かい納入コントロール
- ・ 倉庫スペース削減、棚卸削減
- ・ 汎用品に加え、カスタム品への適用可(注文による引取責任の明確化が可能のため)

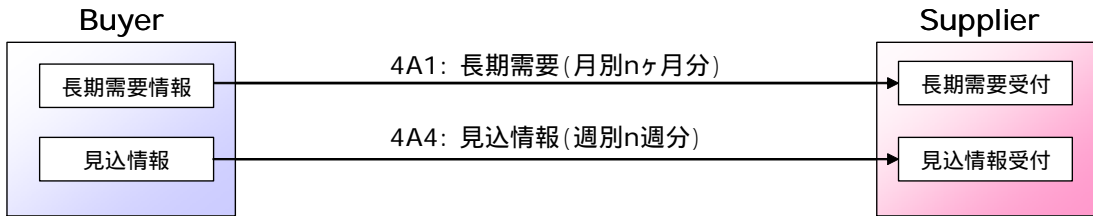
参加企業の事例を Appendix 1.3 及び 2.2 に紹介しているので参考にされたい。

1.3 ビジネスプロセスパターン

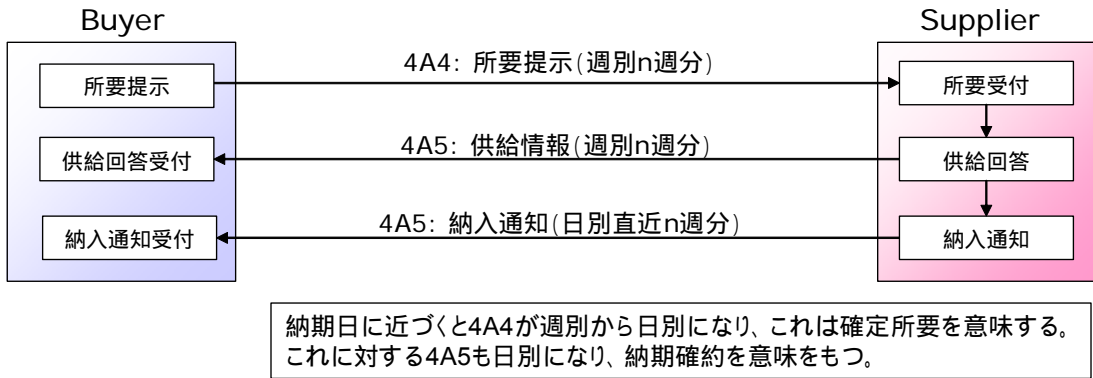
所要提示や注文などのビジネスプロセス 1 つをとってみてもその使い方は各参加企業間で異なっている。ここでは、その使い方のパターンをビジネスプロセス別に紹介する。

a) 所要

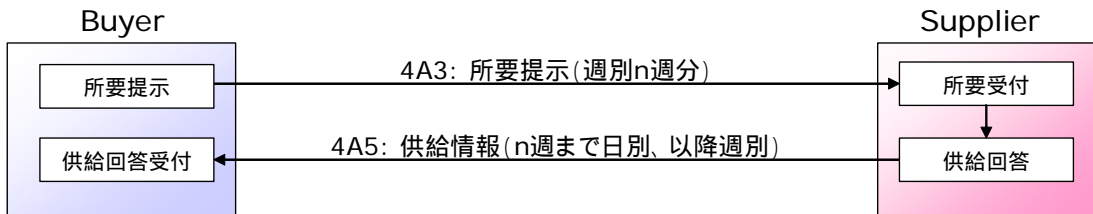
パターン1(PIP を分けて長期需要と見込み情報を扱う)



パターン2(同じ PIP で週別、日別所要を扱う)

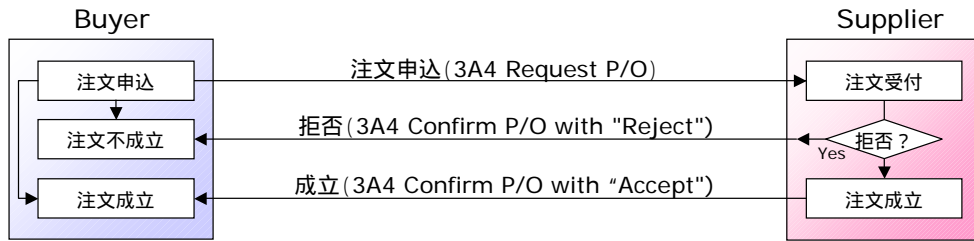


パターン3(同じ PIP で週別、日別所要を扱う)

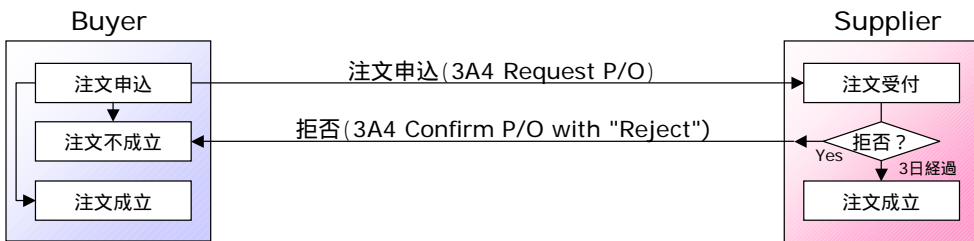


b) 注文

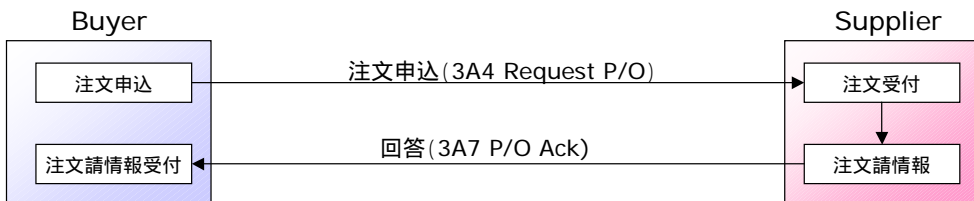
パターン1(受信した 3A4Request に対し 3A4Confirmation を発行する)



パターン 2(3A4Confirmation を限定的に用いる)



パターン3(3A4Confirmation ではなく 3A7 を注文請けとして用いる)



2. PIP 使用上の注釈(PIP Usage Notes)

ここでは、本ガイドラインで扱う PIP の使用上の注釈事項を示す。

2.1 各 PIP 共通の使用上の注釈

ここでは、本ガイドラインで扱う全 PIP に共通の使用上の注釈事項を示す。

2.1.1 エlementに設定する項目について

PIP の各Elementには、1つの項目のみをセットする。

【解説】

例えば FreeFormText は原則として自由に使えるタグだが、CSV(コンマ区切りデータ)や TSV(タブ区切りデータ)等を使って複数項目をセットすることは XML のメリットを損ねるため、1つの項目のみをセットする。

2.1.2 PIP 中の全角文字使用について

PIP の各Elementにセットする値として、全角文字(2バイトコード文字)を使用可能とするか、半角英数字のみに限定するかについては、TPA で取り決めるものとする。

【解説】

PIP の多くのElementはバックエンドへの取り込みを想定しているため、文字コードについては事前に考慮しておくことで、システム構築の手戻りを軽減することができる。

2.1.3 不要項目の扱いについて

PIP のElementの中で値をセットしない任意項目のタグがある場合は、タグ自体の送受信について双方で可変にするかどうかについて検討が必要である。

【解説】

例えば、20日間の所要計画のうち実際にデータがセットされている日数が15日間しかない場合は、データがセットされない残り5日間のタグ自体が無駄となるため、送信しないことが有益である。その場合には、受信側も、可変の繰り返しを処理できるように対応しておくことが必要となる。

2.1.4 PIP の必須項目について

PIP の送信者は、各 PIP で重要と思われる情報を各 PIP で定義された必須項目から優先的にマッピングする。必須項目で対応できない場合に限り任意項目、あるいは2次情報タグを使用する。

【理由】

3A4のような発注データには、最低限必要な項目、たとえば注文番号、発注者品名コード、納期、数量、単価等がある。そしてそれらの情報は3A4のPIPの中で必須項目として扱われている。しかし発注者の中には、都合によりそれらの項目が任意項目にマッピングされ、必須項目には擬似的な値をセットしているケースが存在した。受注者側のPIP実装効率を向上させるために本項が必要となった。

2.1.5 品名・品名コードなどを入れる項目について

製品（Product）に関する情報は発注者品名コードを必須とする。ただし、品名や編集された発注者品名コード等の付加的な情報も必要であれば以下のガイドに従って使用する。

< GlobalPartnerClassificationCode の instance 使用方法のガイドライン >

GlobalPartnerClassificationCode	ProprietaryProductIdentifier
End User	発注者品名
Freight Forwarder	輸送用に編集された発注者品名コード
Manufacturer	受注者品名コード
Shopper	発注者品名コード

< マッピングガイドライン >

0..n	PartnerProductIdentification	
1	GlobalPartnerClassificationCode	メッセージガイドラインから選択し、End User, Freight Forwarder, Shopper など記入
1	ProprietaryProductIdentifier	コードに従った品名コード、品名などを入れる
0..1	revisionIdentifier.FreeFormText	（不使用）

【解説】

輸送用に編集された発注者品名コードとは、視覚的に判断しやすくするためにハイフン等をつけて編集した発注者品名コードである。

2.1.6 2次情報タグについて

PIP メッセージ仕様で規定されていない項目をセットするためのタグを“2次情報タグ”と呼称する。

【解説】

EIAJ-EDIに使用されてきた情報項目の中で、現在の業務で必要となっていた情報項目をPIPにマッピングする際、PIPメッセージ仕様上に該当する項目が無い場合に使用する。

2.2 セグメント 3A 使用上の注釈

ここでは、以下の PIP についての使用上の注釈について述べる。

- 3A4 (Request Purchase Order)
- 3A7 (Notify of Purchase Order Update)
- 3A8 (Request Purchase Order Change)
- 3A9 (Request Purchase Order Cancellation)

2.2.1 セグメント 3A 使用上のルール

(1) Confirmation の使い方について

3A4、3A8、3A9 の Confirmation (Accept、Pending、Reject) の使い方については、ビジネスプロセスや取り扱う部品などにより使い方が様々となるため、ロゼッタネットでの取引を開始する前に、バイヤ・サプライヤ間の TPA で取り決めておく。

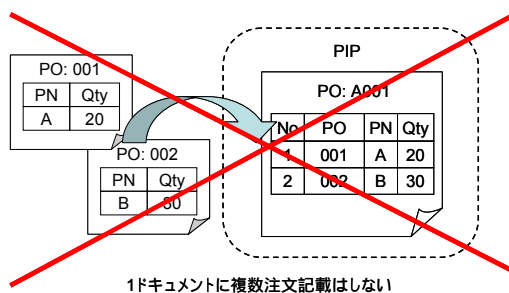
(2) 1ドキュメントにおける複数注文記載の禁止について

1ドキュメントでは常に1注文を記載する運用を行うものとし、1ドキュメント中に複数の注文を記載することは禁止する。(例えば、個々の注文番号をまとめた親注文番号を採番し、1親注文番号あたり複数(子)注文番号の体系を持つドキュメントは使用しない)

【解説】

EIAJ-EDIでは、1ドキュメントに1製品(Product)を記載する注文形態をとっていたため、キット発注の様に複数製品で面揃えを行った上で入荷して欲しい場合、各物品単位に注文番号を個別に発行した上で、面揃えして欲しい単位に親注文番号を採番・付与することにより、面揃え単位を明確化する方法をとっていた。

しかし、RosettaNetのPIP3A4では、1ドキュメントに複数製品を記載できることから、1親注文番号あたり複数(子)注文番号の体系を取る必要がないため、1ドキュメントには1注文のみ記載する運用とする。



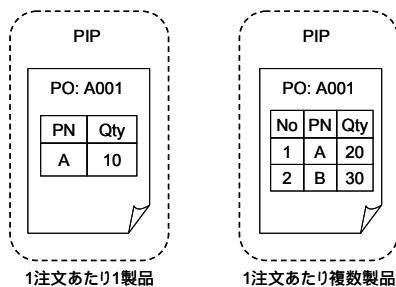
(3) 1注文における複数品名コード記載の対応について

3A4を使用した発注処理においては、1注文に1つの品名コードを記載する形、または1注文に複数の品名コードを記載する形のどちらの形式にも対応できるようにする。

【解説】

現在、日本では多くの会社にて1注文に1品名コードを記載する書式が用いられている。しかし日本以外、特に欧米では、1注文に複数の品名コードを入れる書式が多く用いられており、ERPパッケージソフトも通常この形式を基本として作られている。

RosettaNetの各メッセージ(PIP)でも、入れ子構造で1注文に複数品名コードを記載できるようになっている。1注文で複数品名コードを記載する形式は、注文数を大幅に減らすことが出来るが、その反面、1注文のサイズを大きなものとしてしまう可能性もある。しかし、今後のグローバルな取引に対応するためには、どちらの形式にも対応できることが必要である。



(4) 2次情報タグについて

PIP仕様上該当する項目が存在しない場合に使用する項目として、2次情報タグとして用いるブロックを決めたが、セグメント 3A においては、2次情報タグの使用方法についても、各社で共通化できるように以下のガイドラインを作成した。

GlobalDocumentReferenceTypeCode *1→		Purchase Order *2	Work Order	Sales Order	Delivery Note	Contract
ProprietaryDocumentIdentifier	Type 桁数*3	LineNumber	LineNumber	LineNumber	LineNumber	LineNumber
発注部門コード	X(8)	2				
処理区分	X(2)	4				
倉庫区分	X(5)	5				
梱包単位	9(12)V99	6				
注文 L/T	9(4)	7				
仮単価フラグ	X(1)	8				
発注方針	X(3)	9				
JRP 区分	X(3)		1			
製番/製造番号	X(20)		2			
ラインコード	X(5)		3			
検査区分	X(3)	10				
受入数	S9(12)V999	16				
注文残数	S9(12)V999	17				
合格数	S9(12)V999	18				
不合格数	S9(12)V999	19				
未検収数	S9(12)V999	20				
受渡場所名	X(20)				1	
荷姿	X(2)				2	
支払条件区分	X(1)					1
支払方法	X(20)					2
支払条件	X(20)					3
荷受人コード	X(10)			4		
荷揚港	X(5)			5		
建値区分	X(20)			6		
ベンダー指定区分	X(1)			9		
受注形態区分	X(1)			11		
仲介者部門コード	X(3)			13		
仲介者製番	X(20)			14		
仲介者製品コード	X(10)			15		
仲介者支給区分	X(1)			16		
仲介者 S/O NO	X(20)			17		
運賃負担区分	X(1)			18		
オーダーくりコード	X(1)			19		

船積港	X(5)			20		
データ処理 No.	9(5)	21				
支給区分	X(1)	23				
材質・規格・寸法	X(20)	24				
仕様書有無	X(1)	25				
納入指示有無区分	X(1)	26				
備考	X(30)	27				
契約条件区分	X(1)	28				
発注形態区分	X(2)	29				

*1: 2 次情報タグ表にない各社独自の使用項目については、GlobalDocumentReferenceTypeCode に'Requisition' を設定して使用する。

*2: これまでの実装済企業の影響を少なくする為、GlobalDocumentReferenceTypeCode = 'Purchase Order' の 1,3,11-15,22 は欠番とする。

*3: Type 桁数については、EIAJ-EDI における属性を考慮した参考情報である。

各 PIP の 2 次情報タグの位置は以下の通りである。

3A4R: Line 215 ~ 221

GlobalDocumentReferenceTypeCode: Line217

LineNumber: Line219

ProprietaryDocumentIdentifier: Line220

3A8R: Line 221 ~ 227

GlobalDocumentReferenceTypeCode: Line223

LineNumber: Line225

ProprietaryDocumentIdentifier: Line226

2.2.2 PIP3A4: Request Purchase Order

この PIP は、バイヤが注文要求として PIP3A4 Request(PIP3A4R) をサプライヤに対して送信し、サプライヤは TPA に従い、必要に応じて注文請情報として PIP3A4 Confirmation(PIP3A4C)をバイヤに送信する。

2.2.2.1. PIP3A4 Request

(1) PIP3A4R の全体構造は以下の通り。

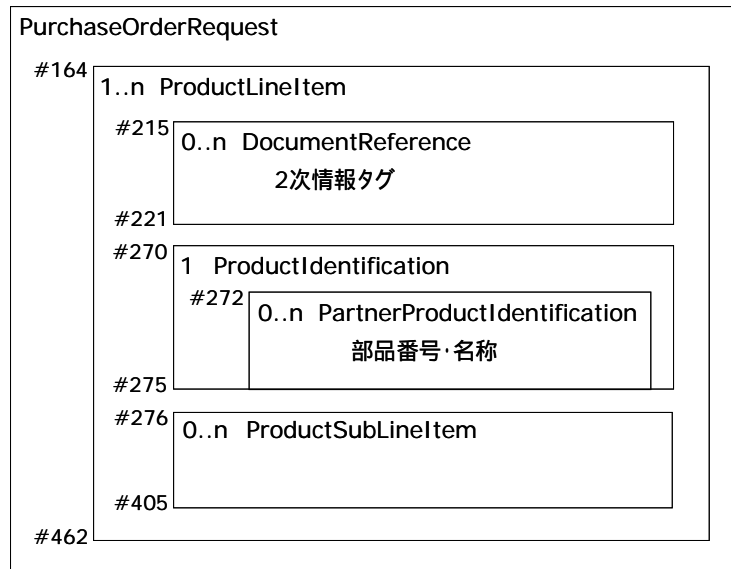


図1. PIP3A4R構造図

(2) PIP3A4R のブロック情報は以下の通り。

行番号	カーディナリティ	3A4 Request	使用方法
1-12	1	fromRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの送信元の情報を記入する。
14-543	1	PurchaseOrder	ドキュメント中の注文情報について記入する。
15-79	0..1	AccountDescription	fromRole.PartnerRoleDescription とは異なる担当者情報や住所など詳細情報が必要な場合、billTo.PartnerDescription 以下に記入する。
106-116	0..n	FinancingTerms	決済関連情報が必要な場合記入する。 GlobalFinanceTermsCode には、取引先との合意に基づき、決済条件区分を記入する。
151	1	isDropShip.AffirmationIndicator	PurchaseOrder レベルでのドロップシップ有り無しについて Yes または No を記入する。
164-462	1..n	ProductLineItem	製品に関する情報を記入する。
165	0..1	comments.FreeFormText	ProductLineItem レベルでの注釈用に自由に使用できる。

184	0..n	countryOfOrigin.GlobalCountryCode	原産国コードに使用する。製品が複数の国で製造される場合には、繰り返しを使用してそれぞれの原産国を記入する。
185-214	0..n	CustomerInformation	カスタマー情報が必要な場合に使用する。
215-221	0..n	DocumentReference	2次情報がある場合、ここに記入する。
225-253	0..1	installAt.PartnerDescription	バイヤ・サプライヤの承認者、担当者情報が必要な場合ここに記入する。
254	1	isDropShip.AffirmationIndicator	ProductLineItem レベルでのドロップシップ有り無しについて Yes または No を記入する。
255	1	LineNumber	ProductLineItem レベルのライン番号を記入する。
256-257	1	OrderQuantity	注文数量を記入する。分割納入指示の場合は、トータル数量を記入する。
258-269	0..1	OrderShippingInformation	荷姿(梱包単位)の情報が必要な場合ここに記入する。
270-275	1	ProductIdentification	部品番号・部品名称の情報を記入する。
276-405	0..n	ProductSubLineItem	納入指示数量、納期に関する情報を記入する。分割納入指示を行う場合は、それぞれに対応する納入指示数量、納期に関する情報を、このレベルの繰り返しを使用して記入する。
344	1	isDropShip.AffirmationIndicator	ProductSubLineItem レベルでのドロップシップ有り無しについて Yes または No を記入する。
345-346	1	OrderQuantity	納入指示数量を記入する。分割納入指示の場合には、それぞれに対する納入指示数量を記入する。
347-358	0..1	OrderShippingInformation	納入に関するキー情報を記入する。
360-364	1	requestedEvent.TransportationEvent	納期情報を記入する。分割納入指示の場合には、First Delivery Date から順次記入する。
405	1	subLineItem.LineNumber	ProductSubLineItem レベルのライン番号を記入する。
406	0..1	proprietaryInformation.FreeFormText	発注者用備考が必要な場合ここに記入する。
407-411	1	requestedEvent.TransportationEvent	LineItem レベルの納期を記入する。#406に設定する納期について、注文書に記載される納期、分割納入指示場合の分納初日、分納完了日など、どの納期を記入するかについては、TPA で決める。
418-422	0..1	requestedUnitPrice.FinancialAmount	購入単価情報が必要な場合ここに記入する。
423-451	0..1	shipTo.PartnerDescription	発注者用のバーコード情報等が必要な場合ここに記入する。
457-462	0..1	totalLineItemAmount.FinancialAmount	注文金額が必要な場合ここに記入する。

505-533	0..1	shipTo.PartnerDescription	受入情報が必要な場合ここに記入する。#501 は受入口コード、#502 は発注会社 DUNS、#508 は受入部門名称または担当者名に使用する。
544	1	thisDocumentGenerationDateTime.DateTimeStamp	発注年月日
545	1	thisDocumentIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	注文番号
546-557	1	toRole.PartnerRoleDescription	送信先の情報を記入する。

(3) 一括納入指示と分割納入指示について

一括納入指示と分割納入指示でのマッピングの差異が生じないように、納期、納入指示数量について以下のマッピングルールを定める。

- ・ 納入指示数量（分割納入指示の場合は、分納単位の納入指示数量）は Line346 にセットする。
- ・ 納期は一括納入指示、分割納入指示の如何に関わらず、Line361～364(SubLineItem レベルの納期)を使用する。この Line361 には、分割納入指示の場合は分割納期を入れる。その際、Line361 の納期は FirstDeliveryDate から順次セットする。また、一括納入指示の場合も同様に Line361 に必ずセットする。
- ・ LineItem レベルの納期は Line407～411 にセットする。ただしその内容については、
FirstDeliveryDate
LastDeliveryDate
その他の代表納期等
のうちで、TPA にて決定した納期をセットするものとする。
- ・ 分割納入指示の場合の LineItem の OrderQuantity(Line256)はトータル数量(= 注文数量)とする。

2.2.2.2. PIP3A4 Confirmation

(1) PIP3A4C の全体構造は以下の通り。

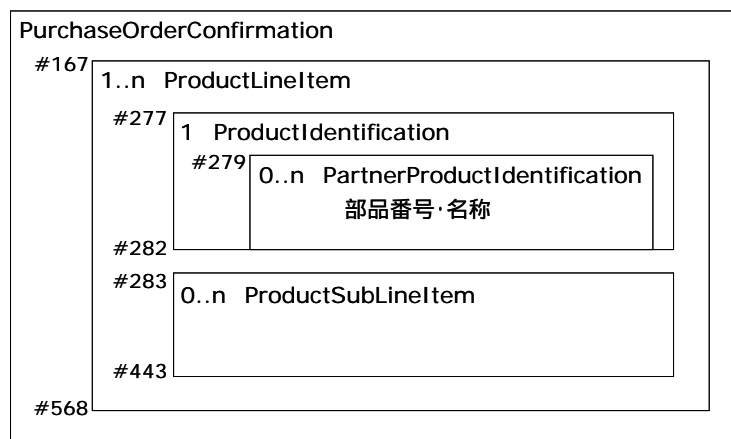


図2. PIP3A4C構造図

(2) PIP3A4C のブロック情報は以下の通り。

行番号	カーディ ナリティ	3A4 Confirmation	使用方法
1-12	1	fromRole.PartnerRoleDescription	受注会社の情報を記入する。
14-696	1	PurchaseOrder	ドキュメント中の注文情報について記入する。
122	1	GlobalPurchaseOrderStatusCode	メッセージガイドラインから選択し、Reject など記入。どのステータスを返すかは TPA などで決める。
154	1	isDropShip.AffirmationIndicator	PurchaseOrder レベルでのドロップシップ有り無しについて Yes 又は No を記入する。
167-560	1..n	ProductLineItem	製品に関する情報を記入する。
168	1	buyerLineItem.LineNumber	ProductLineItem レベルでリクエストに対応するライン番号を記入する。
169	0..1	comments.FreeFormText	ProductLineItem レベルでの注釈用(拒否理由など)に自由に使用できる。
260	1	isDropShip.AffirmationIndicator	ProductLineItem レベルでドロップシップの有り無しについて Yes 又は No を記入する。
261	1	LineNumber	ProductLineItem レベルのライン番号を記入する。
262-264	1	OrderQuantity	オリジナル発注数を記入する。
277-282	1	ProductIdentification	部品番号・部品名称の情報を記入する。
283-443	0..n	ProductSubLineItem	ProductSubLineItem の Confirmation が必要な場合ここに記入する。
354	1	isDropShip.AffirmationIndicator	ProductSubLineItem レベルでドロップシップ有り無しについての情報が必要な場合、ここに Yes 又は No を記入する。
355-357	1	OrderQuantity	オリジナル発注数が必要な場合ここに記入する。
371-375	1	requestedEvent.TransportationEvent	オリジナル納期情報が必要な場合ここに記入する。
438	1	subLineItem.LineNumber	ProductSubLineItem レベルのライン番号を記入する。
445-449	1	requestedEvent.TransportationEvent	オリジナル納期に関する情報を記入する。
697	1	requestingDocumentDateTime.DateTimeStamp	バイヤ発注年月日
698	1	requestingDocumentIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	バイヤ注文番号(PO 番号)
699	1	thisDocumentGenerationDateTime.DateTimeStamp	サプライヤ回答作成日時:バックエンドシステムで作成した日時
700	1	thisDocumentIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	サプライヤ固有のドキュメント ID(注文に対する回答)

701-712	1	toRole.PartnerRoleDescription	発注会社の情報を記入する。
---------	---	-------------------------------	---------------

2.2.3 PIP3A7: Notify of Purchase Order Update

この PIP は、一般的には、サプライヤからバイヤへの注文請情報として使用するもので、toRole に”Buyer”、fromRole に”Seller”をセットして使用する。用途としては、以下のパターンが考えられる。

- ・ 3A4Confirmation で納期回答をした後、なんらかの事情や分納の必要性が出た場合に、サプライヤ側から納期を返すときに 3A7 を使用する。
- ・ 3A4Confirmation は仮の納期回答として使用し、実際の納期回答は 3A7 で行う。

(1) PIP3A7 の全体構造は以下の通り。

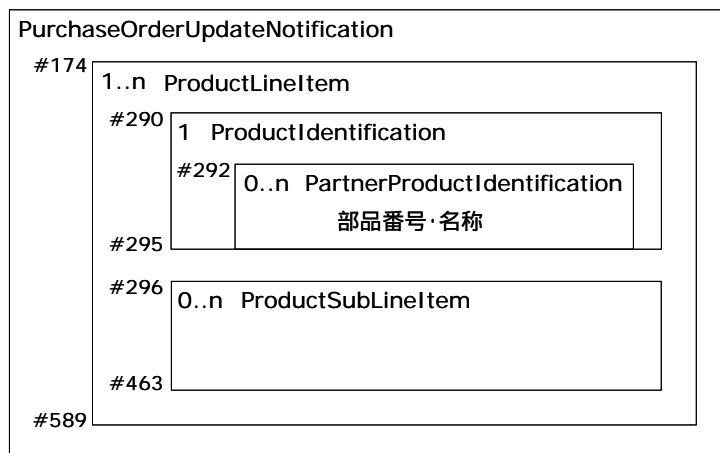


図3. PIP3A7構造図

(2) PIP3A7 のブロック情報は以下の通り

行番号	カーディナリティ	3A7	使用方法
1-12	1	fromRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの送信元(受注者)情報を記入する。
13	0..1	GlobalDocumentFunctionCode	メッセージガイドラインから、Response を記入する。
14-731	1	PurchaseOrderUpdate	注文情報更新情報を記入する。
15	1	isResponseRequired.AffirmationIndicator	Yes 又は No を記入する。
16-730	1	PurchaseOrder	注文情報を記入する。
155	1	isContainsSellerInitiatedChanges.AffirmationIndicator	サプライヤの注文変更情報の場合は Yes、Pending に対する返事は NO を記入する。
156	1	isDropShip.AffirmationIndicator	Yes 又は No 記入
174-589	1..n	ProductLineItem	製品に関する情報を記入する。
267	1	isContainsSellerInitiatedChanges.AffirmationIndicator	サプライヤからの注文変更情報の場合は Yes、Pending の返事は No を記入する。

268	1	isDropShip.AffirmationIndicator	ProductLineItem レベルでドロップシップ有り無しについて、Yes 又は No を記入する。
269	1	LineNumber	ProductLineItem レベルでのライン番号を記入する。
270-272	1	OrderQuantity	バイヤからの注文数量を記入する。
271	1	requestedQuantity.ProductQuantity	バイヤからの注文数量
290-295	1	ProductIdentification	部品番号、部品名称等を記入する。
296-463	0..n	ProductSubLineItem	サブラインアイテムが必要な場合記入する。
367	1	isContainsSellerInitiatedChanges.AffirmationIndicator	サプライヤからの注文変更情報の場合は Yes、Pending の返事は No を記入。
368	1	isDropShip.AffirmationIndicator	SubLineItem レベルでのドロップシップ有り無しについて、Yes 又は No を記入する。
369-371	1	OrderQuantity	納入指示数量(分納の場合はそれぞれの納期)、回答数量(分納の場合はそれぞれに対する回答数量)を記入する。
390-394	1	requestedEvent.TransportationEvent	バイヤからの要求納期(分納の場合はそれぞれの納期記入)が必要な場合記入。
407-411	0..1	scheduledEvent.TransportationEvent	サプライヤからの回答納期(分納の場合はそれぞれの納期記入)が必要な場合記入。
458	1	subLineItem.LineNumber	subLineItem レベルのライン番号を記入する。
465-469	1	requestedEvent.TransportationEvent	バイヤからの要求納期情報を記入する。分納初日、分納完了日、注文書に記載の納期などどのような納期を記入するかは、TPA で決める。
482-486	0..1	scheduledEvent.TransportationEvent	サプライヤからの回答納期情報を記入する。分納初日、分納完了日、注文書に記載の納期などどのような納期を記入するかは、TPA で決める。(LineItem レベル)
591	0..1	purchaseOrderDate.DateTimeStamp	発注年月日を記入する。
592	1	purchaseOrderIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	注文番号を記入する。
731	1	purchaseOrderUpdateRevisionNumber.RevisionNumber	変更履歴番号を記入する。
732	1	thisDocumentGenerationDateTime.DateTimeStamp	サプライヤ回答作成年月日
733	1	thisDocumentIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	サプライヤ固有のドキュメントID(各社採番ルールに基づく一意の番号)
734-745	1	toRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの送付先(発注者)情報を記入する。

(3) PIP3A4 との重複情報の省略について

PIP3A4 で既に指定している情報を PIP3A7 で改めて指定する必要はない、という考えから、Line81 の WireTransferIdentifier、Line126 ~ 154 の installAt.PartnerDescription、Line177 ~ 194 の

ContractInformation には何もセットしない。

(4) 発注年月日の設定について

発注年月日は、Line591 の purchaseOrderDate.DateTimeStamp にセットする。(Line226 の DateTimeStamp には何もセットしない)

(5) GlobalPurchaseOrderStatusCode の使い方について

Line123: PurchaseOrder レベル	Accept	Accept	Reject
Line235: ProductLineItem レベル	Accept	Accept	Reject
Line348: ProductSubLineItem レベル	Accept	Accept	Reject
		Reject	
		Pending	

基本的には PurchaseOrder レベルのステータスは、"Accept"を返すものとする。PIP3A4 の発注に関して、ProductLineItem レベル (つまり Item)、ProductSubLineItem レベル (つまり Schedule) 全てに関して"Reject"である場合は、注文レベルも"Reject"で返す。Schedule に関してのみ"Reject"、"Pending"のものがある場合には、PurchaseOrder レベル ProductLineItem レベルは"Accept"で返す。

3A4C の GlobalPurchaseOrderStatusCode と 3A7 の GlobalPurchaseOrderStatusCode の使用方法について、整合を取っておく必要がある。

2.2.4 PIP3A8: Request Purchase Order Change

この PIP は、バイヤが注文情報の変更を行う場合に PIP3A8 Request(PIP3A8R) をサプライヤに対して送信し、サプライヤは TPA に従い、必要に応じて注文変更請情報として PIP3A8 Confirmation(PIP3A8C) をバイヤに送信する。

2.2.4.1. PIP3A8 Request

(1) PIP3A8R の全体構造は以下の通り。

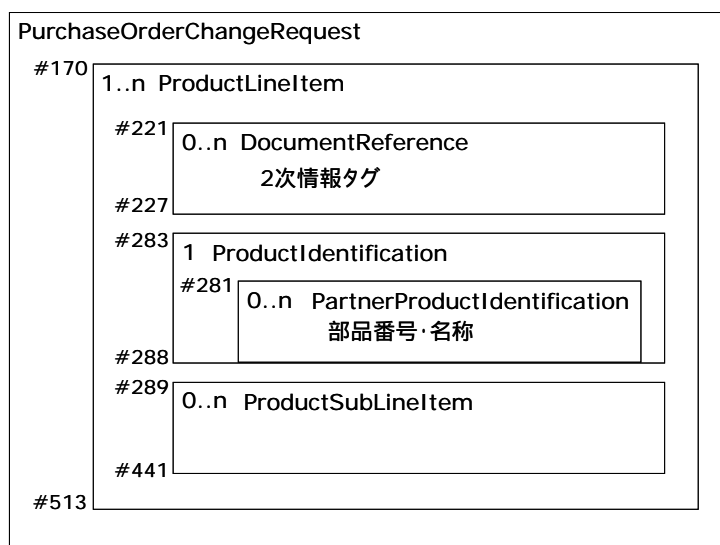


図4. PIP3A8R構造図

(2) PIP3A8R のブロック情報は以下の通り

行番号	カーディナリティ	3A8 Request	使用方法
1-12	1	fromRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの送信元の情報を記入する。
14-613	1	PurchaseOrder	注文情報を記入する。
15-98	0..1	AccountDescription	fromRole.PartnerRoleDescription とは異なる担当者情報や住所など詳細情報が必要な場合、billTo.PartnerDescription 以下に記入する。
106-116	0..n	FinancingTerms	#116 まで決済関連情報が必要な場合記入する。
152	1	isDropShip.AffirmationIndicator	ドロップシップ有り無しを Yes 又は No で記入する。
170-513	1..n	ProductLineItem	製品の情報を記入する。
191	0..n	countryOfOrigin.GlobalCountryCode	原産国コードを記入する。製品が複数の国で製造されている場合には、繰り返しを使用してそれぞれの原産国を記入する。
192-218	0..n	CustomerInformation	カスタマー情報が必要な場合記入する。
221-227	0..n	DocumentReference	2次情報タグとして使用する。
261	1	isDropShip.AffirmationIndicator	Yes 又は No:ドロップシップ有り無しを記入
262	1	LineNumber	ライン番号:1 など記入
263-265	1	OrderQuantity	変更注文数量を記入する。
266-277	0..1	OrderShippingInformation	荷姿等を記入する。
283-288	1	ProductIdentification	部品番号、部品名称の情報を記入する。
289-441	0..n	ProductSubLineItem	サブラインアイテムの記入をする。
358	1	isDropShip.AffirmationIndicator	ProductSubLine レベルでドロップシップ有り無しを Yes 又は No で記入
359-361	1	OrderQuantity	変更納入指示数量を記入。分納の場合はそれぞれに対する納入指示数量を記入する。
362-373	0..1	OrderShippingInformation	納入番号、納品キー等を記入する。
390-394	1	requestedEvent.TransportationEvent	変更納期情報を記入する。分納の場合はそれぞれの変更納期を記入する。
441	1	subLineItem.LineNumber	サブラインアイテムナンバーを記入する。
442	0..1	proprietaryInformation.FreeFormText	発注者用備考が必要な場合、ここに記入する。
443-452	0..n	ReceivedQuantityInformation	受入数(累計)、最終検収日等を記入する。

453-457	1	requestedEvent.TransportationEvent	変更納期情報を記入する。分納初日、分納最終日、注文書納期などを TPA で決めて記入する。
464-468	0..1	requestedUnitPrice.FinancialAmount	購入単価必要な場合記入する。
475-508	0..1	shipTo.PartnerDescription	発注者バーコード/発注者用バーコード情報が必要な場合ここに記入する。
509-513	0..1	totalLineItemAmount.FinancialAmount	注文金額必要な場合記入する。
515	0..1	purchaseOrderDate.DateTimeStamp	発注年月日を記入する。
516	1	purchaseOrderIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	注文番号を記入する。
575-603	0..1	shipTo.PartnerDescription	受入口、受入担当者等、受入情報が必要な場合記入する。
614	1	thisDocumentGenerationDateTime.DateTimeStamp	発注変更年月日
615	1	thisDocumentIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	各社固有のドキュメント ID (1 注文番号当たり複数回変更されることがある。)
616-627	1	toRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの送付先の情報を記入する。

(3) 注文番号の設定に関する PIP3A4 との相違について

PIP3A8R においては、Line515 purchaseOrderIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier に注文番号をセットする。3A4 では thisDocumentIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier に注文番号をセットしていたが、注文変更は一つの注文に対して複数回行う可能性があるため、注文番号は Line515 にセットし、Line615 thisDocumentIdentifier.Proprietary DocumentIdentifier には、純粋なドキュメント番号をセットする。これにより、バリデーションチェックでの重複受信エラーを回避する。

(4) 作成日時による有効なメッセージの選択

一つの注文に対して、複数の ChangeRequest が発生する場合、その受信タイミングが入れ替わる可能性がある。この場合、Line614 の thisDocumentGenerationDateTime.DateTimeStamp の作成日時を比較し、作成日時の古い変更情報を捨てるという処理が必要となる。

2.2.4.2. PIP3A8 Confirmation

(1) PIP3A8C の全体構造は以下の通り。

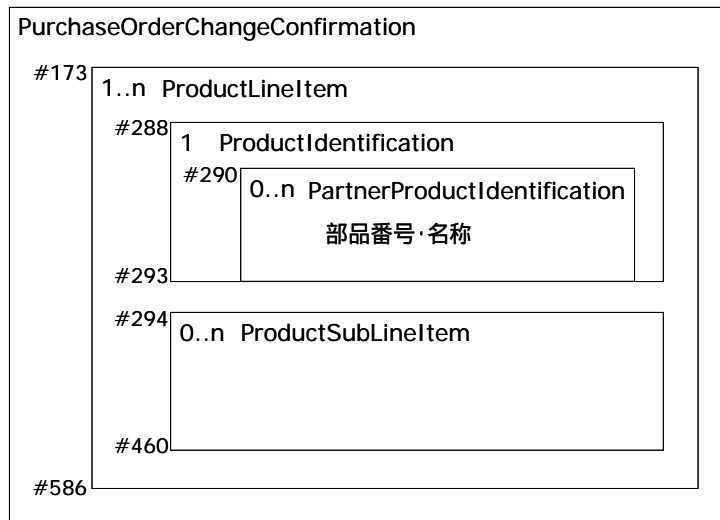


図5. PIP3A8C構造図

(2) PIP3A8C のブロック情報は以下の通り。

行番号	カーディナリティ	3A8 Confirmation	使用方法
1-12	1	fromRole.PartnerRoleDescription	受注会社の情報を記入する。
14-727	1	PurchaseOrder	注文情報を記入する。
15-98	0..1	AccountDescription	fromRole.PartnerRoleDescription とは異なる担当者や住所など詳細情報を記入する場合、billTo.PartnerDescription 以下に記入する。
173-586	1..n	ProductLineItem	注文の製品に関する情報を記入する。
175	0..1	comments.FreeFormText	自由使用欄として、拒否理由などを記入する
236	1	GlobalPurchaseOrderStatusCode	メッセージガイドラインから選択し、Reject など記入。どのステータスを返すかは TPA など決める。
266	1	isDropShip.AffirmationIndicator	ドロップシップ有り無しについて、Yes 又は No を記入する。
267	1	LineNumber	ProductLineItem レベルのライン番号を記入する。
268-270	1	OrderQuantity	変更発注数(3A8R で来た数量)を記入する。
288-293	1	ProductIdentification	部品番号、部品名称等を記入する。

294-460	0..n	ProductSubLineItem	SubLineItem の Confirmation が必要な場合、記入する。
365	1	isDropShip.AffirmationIndicator	ドロップシップ有り無しについて、Yes 又は No を記入する。
366-368	1	OrderQuantity	バイヤからの変更注文数を記入する。
387-391	1	requestedEvent.TransportationEvent	バイヤからの変更納期情報が必要な場合、記入する。
455	1	subLineItem.LineNumber	ProductSubLineItem レベルのライン番号を記入する。
462-466	1	requestedEvent.TransportationEvent	バイヤからの変更納期情報を記入する。
588	0..1	purchaseOrderDate.DateTimeStamp	オリジナル注文書発行年月日を記入する。
589	1	purchaseOrderIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	オリジナル注文番号を記入する。
728	1	requestingDocumentDateTime.DateTimeStamp	バイヤ注文変更要求年月日
729	1	requestingDocumentIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	バイヤ固有のドキュメント ID(各社採番ルールに基づく一意の番号)
730	1	thisDocumentGenerationDateTime.DateTimeStamp	サプライヤ回答作成年月日
731	1	thisDocumentIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	サプライヤ固有のドキュメント ID(各社採番ルールに基づく一意の番号)
732-743	1	toRole.PartnerRoleDescription	発注会社の情報を記入する。

2.2.5 PIP3A9: Request Purchase Order Cancellation

この PIP は、バイヤが注文情報のキャンセルを行う場合に PIP3A9 Request(PIP3A9R) をサプライヤに対して送信し、サプライヤは TPA に従い、必要に応じて注文キャンセル請情報として PIP3A9 Confirmation(PIP3A9C)をバイヤに送信する。

2.2.5.1. PIP3A9 Request

(1) PIP3A9R の全体構造は以下の通り。



図6. PIP3A9R構造図

(2) PIP3A9R のブロック情報は以下の通り

行番号	カーディ ナリティ	3A9 Request	使用方法
1-12	1	fromRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの発注者の情報を記入する。
14-17	1	PurchaseOrderCancellation	キャンセルする注文の情報を記入する。
18	1	thisDocumentGenerationDateTime.DateTimeStamp	注文キャンセル要求年月日
19	1	thisDocumentIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	ドキュメント ID (各社採番ルールに基づく一意の番号)
20-31	1	toRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの受注者の情報を記入する。

2.2.5.2. PIP3A9 Confirmation

(1) PIP3A9C の全体構造は以下の通り。



図7. PIP3A9C構造図

(2) PIP3A9C のブロック情報は以下の通り。

行番号	カーディ ナリティ	3A9 Confirmation	使用方法
1-12	1	fromRole.PartnerRoleDescription	受注者情報を記入する。
14-18	1	PurchaseOrderCancellation	キャンセル要求された注文情報を記入する。
19	1	requestingDocumentDateTime.DateTimeStamp	バイヤ注文キャンセル要求年月日
20	1	requestingDocumentIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	バイヤ固有の注文キャンセルドキュメントのID
21	1	thisDocumentGenerationDateTime.DateTimeStamp	サプライヤ回答作成年月日
22	1	thisDocumentIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	サプライヤ固有のドキュメントID
23-34	1	toRole.PartnerRoleDescription	発注者情報を記入する。

2.3 セグメント 4A 使用上の注釈

ここでは、以下の PIP についての使用上の注釈について述べる。

- 4A1 (Notify of Strategic Forecast)
- 4A3 (Notify of Threshold Release Forecast)
- 4A4 (Notify of Planning Release Forecast)
- 4A5 (Notify of Forecast Reply)

2.3.1 セグメント 4A 使用上のルール

(1) フォーキャストを提示する期間について

フォーキャストの提示期間（何ヶ月分、何週分、何日分）は、各社 TPA で決定する。

(2) フォーキャストの確定について（isFinalForecast.AffirmationIndicator）

“YES”、“NO”の記入については TPA で取り決める。

<例>

“YES” -- 生産計画等に反映させる確定版フォーキャストの場合。

“NO” -- 提示したフォーキャストがサプライヤ側で対応可能かを問う場合。供給回答情報（PIP4A5）をバイヤへ返信することが必要。

(3) TradeOff Zone について

引取り責任のあるフォーキャストがある場合に限り使用し、BeginDate は引取り責任開始日、EndDate は保証期間が切れる最終日を入れる。また、引取り責任の対象となる製品が構成部品・原材料を含むかどうかについては TPA で定義する。

(4) 1 ドキュメントに複数製品（Product）を記入する場合の繰り返し構造について

1 ドキュメントに複数製品（Product）のフォーキャストを記入する場合、たとえパートナーの情報が同じであっても PartnerProductForecast を使って回していく。

(5) GlobalTransportEventCode について

Ship --- 提示されたフォーキャストが出荷日ベースのものであることを意味する。

Dock --- 提示されたフォーキャストが納入日ベースのものであることを意味する。

2.3.2 PIP4A1: Notify of Strategic Forecast

この PIP は特定の製品（Product）の需要予測情報だけに限らず、製品群レベルでの需要予測にも使用することができる。一般的に長期の戦略的な需要を表すために使用する。

(1) PIP4A1 の全体構造は以下の通り。

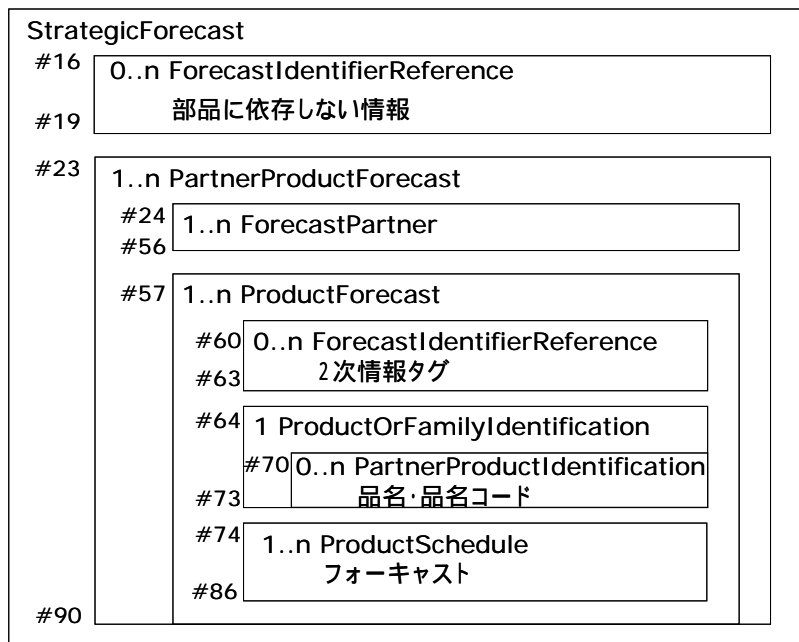


図8. PIP4A1構造図

(2) PIP4A1 のブロック情報は以下の通り。

行番号	カーディナリティ	4A1	使用方法
1-12	1	fromRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの送信元の情報を記入する。
14	1	StrategicForecast	1ドキュメント中の Strategic Forecast 情報について記入する。
15	1	forecastGenerationDateTime.DateTimeStamp	フォーキャスト作成日を記入する。
16-19	0..n	ForecastIdentifierReference	このフォーキャスト情報を識別するタイプやコードを記入する。
21	1	GlobalTransportEventCode	Dock あるいは Shipなどを記入する。
22	1	isFinalForecast.AffirmationIndicator	Yes を記入する。
23-90	1..n	PartnerProductForecast	このドキュメントで提示された Product のフォーキャスト情報、パートナー情報を記入する。
24-56	1..n	ForecastPartner	fromRole と異なるパートナーの情報あるいは fromRole の更に詳しい情報(住所など)を記入する。
57-90	1..n	ProductForecast	このドキュメントで提示された Product のフォーキャスト情報を記入する。
60-63	0..n	productForecastIdentifier.ForecastIdentifierReference	2次情報が必要な場合記入する。
64-73	1	ProductOrFamilyIdentification	フォーキャストの対象となる Product あるいは Product Family を記入する。
74-86	1..n	ProductSchedule	フォーキャストの年月日、数量を記入する。

92	1	thisDocumentGenerationDateTime.DateTimeStamp	このドキュメントの作成日時を記入する。
93	1	thisDocumentIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	このドキュメントの ID を記入する。
94-105	1	toRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの送信先の情報を記入する。

2.3.3 PIP4A3: Notify of Threshold Release Forecast

この PIP は、Product の需要予測情報と在庫情報を同時にサプライヤに通知するために使用する。在庫情報には、在庫数量のほかに最大・最小在庫数等を通知することもでき、またオプションとして受け入れ数や庫出数なども通知できる。サプライヤ側では、それらの情報からバイヤ側の在庫情報を把握し、最適な生産または出荷計画等を立案することが可能となる。

(1) PIP4A3 の全体構造は以下の通り。

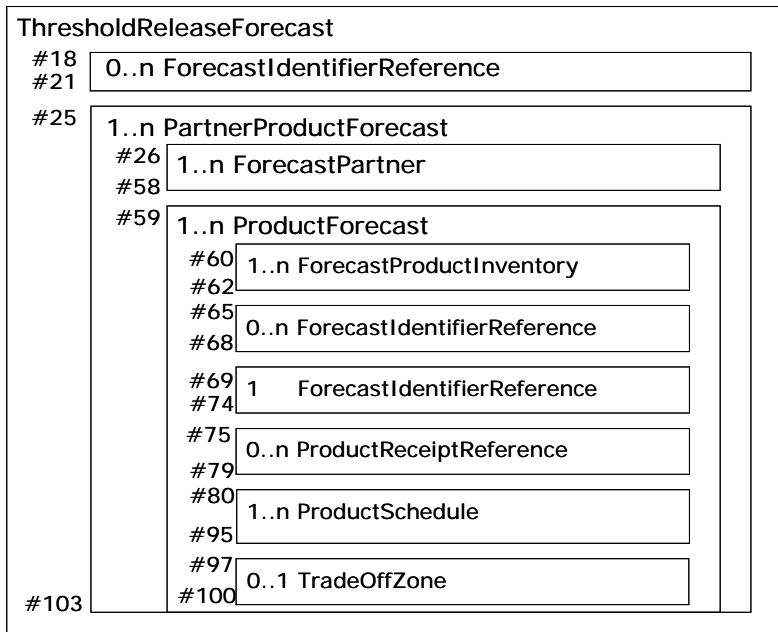


図9. PIP4A3構造図

(2) PIP4A3 のブロック情報は以下の通り。

行番号	カーディナリティ	4A3	使用方法
1-12	1	fromRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの送信元の情報を記入する。
14	1	thisDocumentGenerationDateTime.DateTimeStamp	このドキュメントの作成日時を記入する。
15	1	thisDocumentIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	このドキュメントの ID を記入する。
16	1	ThresholdReleaseForecast	1ドキュメント中の ThresholdReleaseForecast 情報について記入する。
17	1	forecastGenerationDateTime.DateTimeStamp	フォーキャスト作成日を記入する。
18-21	0..n	ForecastIdentifierReference	このフォーキャスト情報を識別するタイプやコ

			ードを記入する。
23	1	GlobalTransportEventCode	Dock あるいは Shipなどを記入する。
24	1	isFinalForecast.AffirmationIndicator	Yes を記入する。
25-103	1..n	PartnerProductForecast	このドキュメントで提示された Product のフォーキャスト情報、パートナー情報を記入する。
26-58	1..n	ForecastPartner	fromRole と異なるパートナーの情報あるいは fromRole の更に詳しい情報(住所など)を記入する。
59-103	1..n	ProductForecast	このドキュメントで提示された Product のフォーキャスト情報を記入する。
60-62	1..n	ForecastProductInventory	ForecastProductSchedule に関連付けない在庫情報を繰り返して記入する。
65-68	0..n	productForecastIdentifier.ForecastIdentifierReference	2次情報が必要な場合記入する。
69-74	1	ProductIdentification	フォーキャストの対象となる Product を記入する。
75-79	0..n	ProductReceiptReference	Forecast Owner が前回 4A3 を送信した後にサプライヤから受領した Product の数量、日時等の情報を記入する。
80-95	1..n	ProductSchedule	フォーキャストの年月日、数量、ForecastProductSchedule に関連付けた在庫情報を記入する。
97-100	0..1	TradeOffZone	引取責任のあるフォーキャストの場合に記入する。
105-116	1	toRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの送信先の情報を記入する。

(3) GlobalForecastInventoryTypeCode について

在庫タイプ	日本語訳	説明
Available Inventory	利用可能在庫	「手持ち在庫 + 預託在庫(コンサイメント在庫) + その他の調整」
Consigned Inventory	預託在庫(コンサイメント在庫)	Consignment Inventory Business Process Model で使われ、未使用で、未請求の在庫。物理的にはバイヤあるいは 3PL の倉庫に置かれているが、サプライヤから未請求の在庫。
Cumulative Quantity Consumed	累積消費数(使用数)	ある期間のバイヤにより累積された使用数。この数量は、Consignment Inventory Business Process Model で使われる。
Cumulative Quantity Received	累積受領数	ある期間のバイヤ側に配送され、システムの的に受領された数量。
In transit	輸送中数量	ある場所から目的地への途中にあり、目的地のシステムに取り込まれていない輸送途中の製品の数量。
Maximum Days of Supply Target	最大 DOS 目標 DOS: 在庫日数、在庫回転日数	最大在庫回転日数目標 在庫の回転日数の最大目標値を意味する。 DOS は Days of Supply の他に、Days of Stock や Days of inventory Stock の略とされる場合がある。

Maximum Inventory Target	最大在庫目標	パイヤによって定義された最大必要在庫数量。
Minimum Days of Supply Target	最小 DOS 目標	最小在庫回転日数目標 => Maximum Days of Supply Target を参照のこと。
Minimum Inventory Target	最小在庫目標	パイヤによって定義された最小必要在庫数量。安全在庫ともいう。
Net Available Inventory	純(正味)利用可能在庫	Available Inventory - Past Due Demand (期日を過ぎた需要)。
On-Hand Inventory	手持ち在庫	出し入れされた後のある時点(通常は一日の終わり)に物理的に在庫とされる数量。完成品、使用可能在庫とも。
Past Due Demand	過去(期日を過ぎた)需要	予定日が過去となったため、予定の需要に反映されない在庫に対する需要
Work In Process Inventory	仕掛在庫	工程仕掛在庫数量

2.3.4 PIP4A4: Notify of Planning Release Forecast

この PIP は Product の需要予測情報をサプライヤ側に通知するために使用する。

(1) PIP4A4 の全体構造は以下の通り。

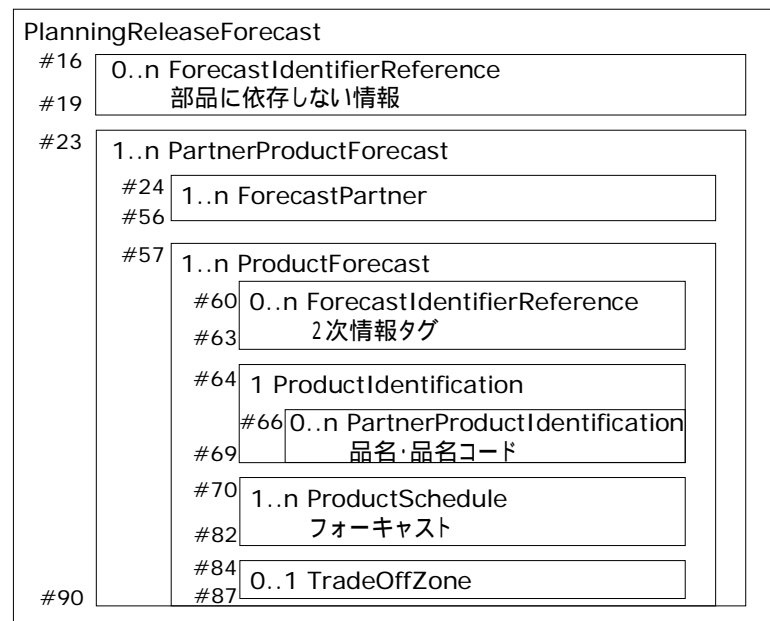


図8. PIP4A4構造図

(2) PIP4A4 のブロック情報は以下の通り。

行番号	カーディナリティ	4A4	使用方法
1-12	1	fromRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの送信元の情報を記入する。
14	1	PlanningReleaseForecast	1ドキュメント中の PlanningReleaseForecast 情報について記入する。
15	1	forecastGenerationDateTime.DateTimeStamp	フォーキャスト作成日を記入する。
16-19	0..n	ForecastIdentifierReference	このフォーキャスト情報を識別するタイプやコードを記入する。
21	1	GlobalTransportEventCode	Dock あるいは Ship などを記入する。
22	1	isFinalForecast.AffirmationIndicator	Yes を記入する。
23-90	1..n	PartnerProductForecast	このドキュメントで提示された Product のフォーキャスト情報、パートナー情報を記入する。
24-56	1..n	ForecastPartner	fromRole と異なるパートナーの情報あるいは fromRole の更に詳しい情報(住所など)を記入する。
57-90	1..n	ProductForecast	このドキュメントで提示された Product のフォーキャスト情報を記入する。
60-63	0..n	productForecastIdentifier.ForecastIdentifierReference	2次情報が必要な場合記入する。
64-69	1	ProductIdentification	フォーキャストの対象となる Product を記入する。
70-82	1..n	ProductSchedule	フォーキャストの年月日、数量を記入する。
84-87	0..1	TradeOffZone	引取責任のあるフォーキャストの場合に記入する。
92	1	thisDocumentGenerationDateTime.DateTimeStamp	このドキュメントの作成日時を記入する。
93	1	thisDocumentIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	このドキュメントの ID を記入する。
94-105	1	toRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの送信先の情報を記入する。

2.3.5 PIP4A5: Notify of Forecast Reply

この PIP はパイヤから送信された PIP4A1,4A3,4A4 それぞれに対し、サプライヤからの返答を行うために使用する。

(1) PIP4A5 の全体構造は以下の通り。

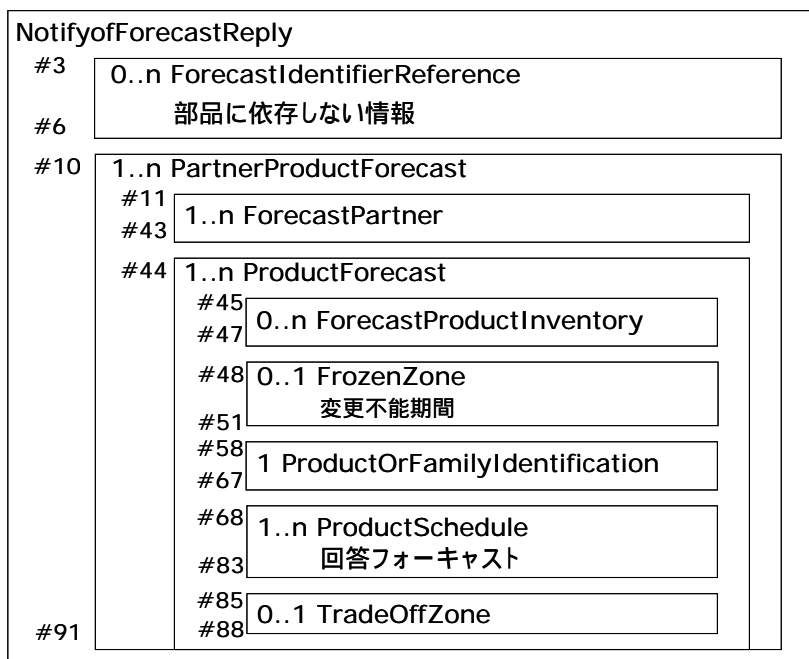


図11. PIP4A5構造図

(2) PIP4A5 のブロック情報は以下の通り。

行番号	カーディナリティ	4A5	使用方法
1-95	1	ForecastReply	1ドキュメント中の ForecastReply 情報について記入する。
2	1	forecastGenerationDateTime.DateTimeStamp	フォーキャスト回答作成日を記入する。
3-6	0..n	ForecastIdentifierReference	このフォーキャスト回答情報を識別するタイプやコードを記入する。
10-91	1..n	PartnerProductForecast	提示されたフォーキャストの回答情報、パートナー情報を記入する。
11-43	1..n	ForecastPartner	toRole と異なるパートナーの情報あるいは fromRole の更に詳しい情報(住所など)を記入する。
44-91	1..n	ProductForecast	このドキュメントで提示された Product のフォーキャストの回答情報を記入する。
45-47	0..n	ForecastProductInventory	TPA に基づき在庫情報が必要な場合記入する。
48-51	0..1	FrozenZone	TPA に基づき変更不能期間が必要な場合

			記入する。
58-67	1	ProductOrFamilyIdentification	フォーキャストの対象となる Product あるいは Product Family を記入する。
68-83	1..n	ProductSchedule	フォーキャストの年月日、数量を記入する。 ただし、バイヤ側から提示されたものに差異があった場合には、事前に TPA で取り決める。
76	1	GlobalForecastResponseCode	メッセージガイドラインからレスポンスコードを選択し記入する。
77	0..n	GlobalForecastRevisionReasonCode	メッセージガイドラインから変更及び拒否理由を選択し記入する。
78	1	ProductQuantity	回答数量を記入する。
83	1	ForecastReplyQuantityTypeCode	メッセージガイドラインから回答数量のタイプを選択し記入する。
85-88	0..1	TradeOffZone	TPA に基づき引取責任対象期間が必要な場合記入する。
92	0..1	previousForecastNotificationDateTime.DateTimeStamp	どのフォーキャストに対する回答かを特定するために対象となるフォーキャストの作成日時を記入する。
93	0..1	previousForecastNotificationIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	どのフォーキャストに対する回答かを特定するために対象となるフォーキャストのドキュメント ID を記入する。
96-107	1	fromRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの送信元の情報を記入する。
109	1	thisDocumentGenerationDateTime.DateTimeStamp	このドキュメントの作成日時を記入する。
110	1	thisDocumentIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	このドキュメントの ID を記入する。
111-122	1	toRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの送信先の情報を記入する。

2.4 その他のセグメント

2.4.1 PIP3C7: Self-Billing Invoice Notification

この PIP は、製品の受領に関して、バイヤからサプライヤへ買掛情報通知、検収情報通知を送信するために使用される。

(1) PIP3C7 の全体構造は以下の通り。

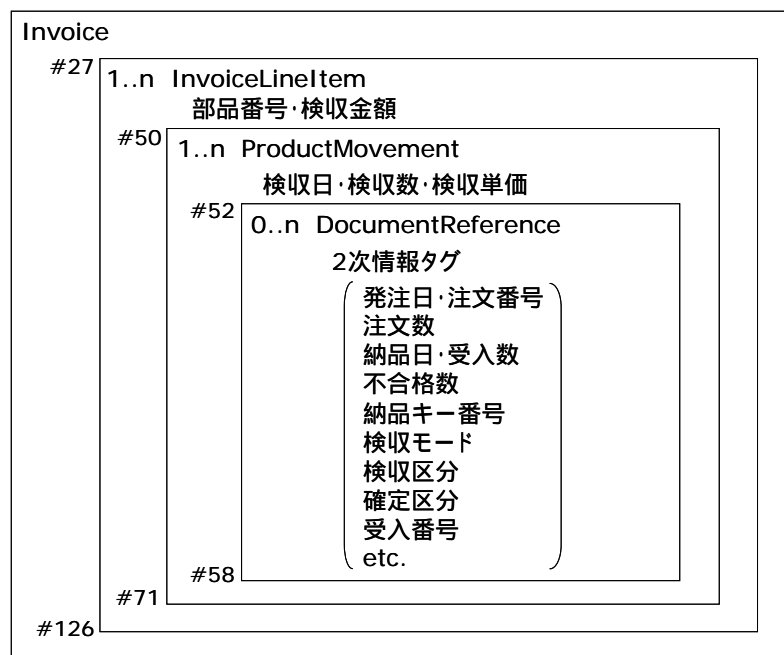


図12. PIP3C7構造図

(2) PIP3C7 の全体構造は以下の通り。

行番号	カーディナリティ	3C7	使用方法
1-12	1	fromRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの送信元情報を記入する。
14-436	1	Invoice	インボイス情報を記入する。
27-126	1..n	InvoiceLineItem	ラインアイテム毎のインボイス情報を記入する。
30	1	LineNumber	ラインアイテム毎のライン番号を記入する。
36-121	1	ProductDescription	ラインアイテム毎の製品明細情報を記入する。
44-49	1	ProductIdentification	部品番号・部品名称の情報を記入する。
50-71	1..n	ProductMovement	ラインアイテム毎の物品消費に関する情報(消費日時、消費物品数、消費物品単価等)を記入する。
51	0..1	DateTimeStamp	物品を消費した日時
52-58	0..n	DocumentReference	2次情報が必要な場合は、ここに記入する。
60-64	0..n	lineItemAmount.FinancialAmount	ラインアイテム毎の合計金額情報を記入する。1ドキュメントあたり1製品の場合は、行126と同じ金

			額情報を記入する。
65	1	LineNumber	物品消費情報ごとのライン番号を記入する。
67	1	ProductQuantity	消費した物品数を記入する。
69-71	1	unitPrice.FinancialAmount	消費した物品単価情報を記入する。
123-126	1	totalLineItemAmount.FinancialAmount	ラインアイテム総合計額を記入する。1ドキュメントあたり1製品の場合は、行64と同じ金額情報を記入する。
127	1	isLockBoxUsed.AffirmationIndicator	ロックボックスの使用有無について Yes 又は No を記入する。
128	1	isRebill.AffirmationIndicator	ドキュメントが再送されたものかどうかについて Yes 又は No を記入する。
164-198	1	remitTo.PartnerTaxDescription	送付先の詳細情報を記入する。カーディナリティが1であるため、空タグとならないよう、行167に送付先 DUNS、行183にメッセージガイドラインのコードを記入する。
203-244	0..1	remitToTax.TaxSummary	TAX 情報が必要な場合、ここに記入する。
245-279	1	selfBillingFrom.PartnerTaxDescription	セルフビルディングインボイスの送付元情報を記入する。カーディナリティが1であるため、空タグとならないよう、行248にセルフビルディングインボイス送付元 DUNS、行264にメッセージガイドラインのコードを記入する。
280-314	1	selfBillingTo.PartnerTaxDescription	セルフビルディングインボイスの送付先情報を記入する。カーディナリティが1であるため、空タグとならないよう、行283にセルフビルディングインボイス送付先 DUNS、行299にメッセージガイドラインのコードを記入する。
432-435	1	totalInvoiceAmount.FinancialAmount	インボイス合計金額について記入する。
437	1	thisDocumentGenerationDateTime.DateTimeStamp	ドキュメント作成日時: バックエンドシステムで作成した日時
438	1	thisDocumentIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	ドキュメント ID (各社採番ルールに基づく一意の番号)
439-450	1	toRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの送付先情報を記入する。

(3) 2次情報タグについて

インボイス情報を補足する情報(発注日、注文番号、注文数、納品日、受入数、不合格数、納品キー番号、検収モード、検収区分、確定区分、受入番号等)は、Line52~58の2次情報タグに記入する。

(4) LineItemAmount と totalLineItemAmount の記述について

LineItemAmount と totalLineItemAmount は、1注文あたり1製品の注文であっても必ず両方とも使用する。

(5) tax に関わる記述について

tax に関わる部分はガイドラインでは記載しない。金額について、税抜金額を入れるか、税込金額を入れるかは、TPA で取り決めることとする。

(6) ドキュメント送付のタイミングについて

ドキュメント送付のタイミングについては、TPA で月次・日次などの取り決めをする。

2.4.2 PIP4B2: Notify of Shipment Receipt

この PIP は、物品を受領したことをサプライヤ(Shipper)へ通知するために使用する。

(1) PIP4B2 の全体構造は以下の通り。

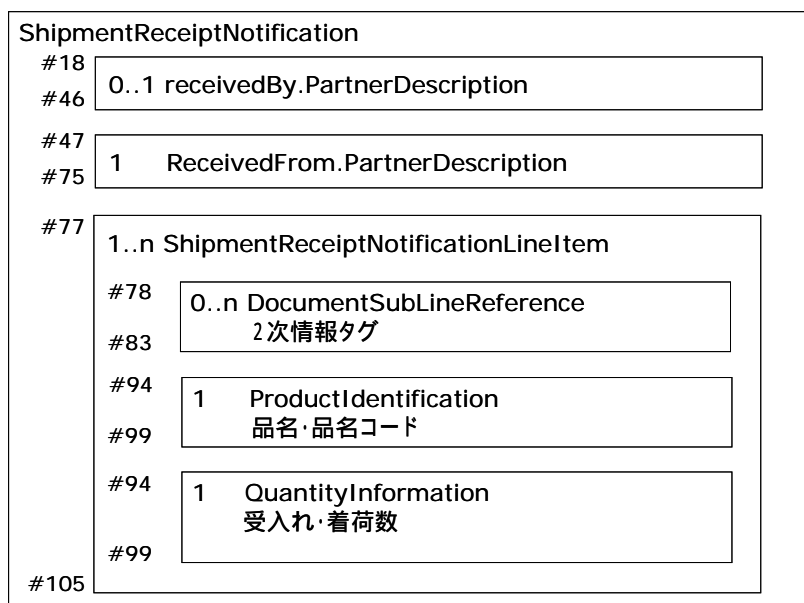


図12. PIP4B2構造図

(2) PIP4B2 のブロック情報は以下の通り。

行番号	カーディナリティ	4B2	使用方法
1-12	1	fromRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの送信元の情報を記入する。
14	1	ShipmentReceiptInformationResource	1ドキュメント中の Shipment Receipt 情報について記入する。
15	1	containerTotalCount.CountableAmount	使わないときはゼロを記入する。
17	1	ReceiptDate.DateTimeStamp	受け入れ日時を記入する。
18-46	0..1	receivedBy.PartnerDescription	受け入れをしたパートナーの情報を記入する。
47-75	1	receivedFrom.PartnerDescription	出荷したパートナーの情報を記入する。
76	0..n	shipmentIdentifier.ProprietaryReferenceIdentifier	shipmentIdentifier.ProprietaryReferenceIdentifier(#76)は、Shipper からの送り状 No.または、サプライヤからの InvoiceNo.等の出荷 ID を記

			入する。これらの情報はサプライヤから送信される 3B2 のデータを使用するとよい。
77-105	1..n	ShipmentReceiptNotificationLineItem	受け入れした Product. 数量等を記入する。
78-83	0..n	DocumentSubLineReference	2次情報が必要な場合記入する。
94-99	1	ProductIdentification	受け入れした Product を記入する。
100-102	1	QuantityInformation	受け入れ及び着荷数を記入する。
101	1	acceptedQuantity.ProductQuantity	着荷した物品を検査した結果、受領した数量を記入する。
102	1	receivedQuantity.ProductQuantity	合格、不合格等の検査結果は考慮されず、単純に着荷した数量を記入する。
106	1	shipmentReceiptReportDateTime.DateTimeStamp	受け入れレポート作成日時を記入する。
119	1	thisDocumentGenerationDateTime.DateTimeStamp	このドキュメントの作成日時を記入する。
120	1	thisDocumentIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	このドキュメントの ID を記入する。
121-132	1	toRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの送信先の情報を記入する。

2.4.3 PIP4C1: Distribute Inventory Report

この PIP は、ある瞬間的な時点での在庫状態を伝えるために使用する。よってその瞬間的な時点が月締め時であったり、棚卸しの時点であったりするとサプライヤにとっては利用度の高い情報（監査目的など）となる。

(1) PIP4C1 の全体構造は以下の通り。

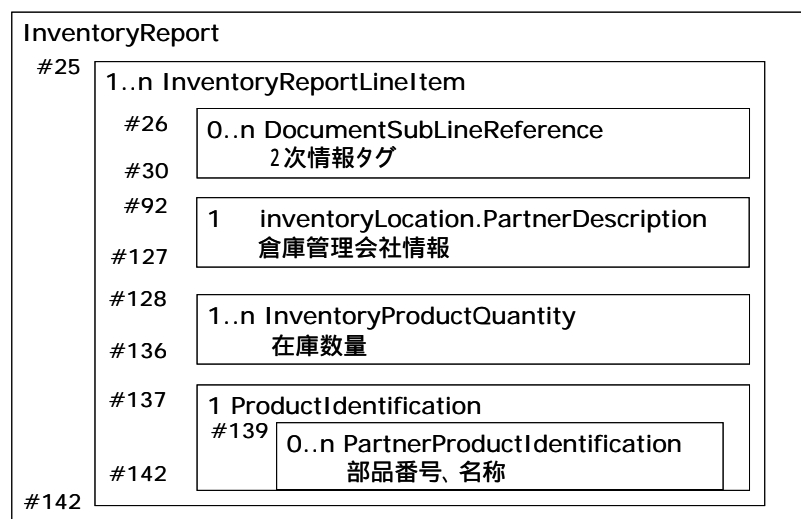


図13. PIP4C1構造図

(2) PIP4C1 のブロック情報は以下の通り。

行番号	カーディ ナリティ	4C1	使用方法
1-12	1	fromRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの送信元の情報を記入する。
14	1	InventoryReport	1ドキュメント中の在庫情報について記入する。
24	1	inventoryReportDateTime.DateTimeStamp	受け入れ日時を記入する。
25-142	1..n	InventoryReportLineItem	在庫の数量、倉庫等の情報を記入する。
26-30	0..n	DocumentSubLineReference	2次情報が必要な場合記入する。
92-127	1	inventoryLocation.PartnerDescription	倉庫を管理している会社、場所等を記入する。
93-99	1	BusinessDescription	倉庫を管理している会社の情報を記入する。
100-104	0..1	ContactInformation	倉庫を管理している担当者を記入する。
106-120	1	PhysicalLocation	在庫のある倉庫の場所を記入する。
128-136	1..n	InventoryProductQuantity	在庫数量を記入する。
137-142	1	ProductIdentification	在庫となっている Product を記入する。
143	1	thisDocumentGenerationDateTime.DateTimeStamp	このドキュメントの作成日時を記入する。
144	1	thisDocumentIdentifier.ProprietaryDocumentIdentifier	このドキュメントの ID を記入する。
145-156	1	toRole.PartnerRoleDescription	このドキュメントの送信先の情報を記入する。

在庫数量は、実在庫数であるか、あるいは理論在庫数であるかについては特に定義しない。

3. 検証での変更内容 (Validation Modification)

ここでは、検証において標準に対して行われた変更に関する情報を提供する。この情報には、特定のデータエレメントまたはデータエレメントブロックの名前と、変更の理由が含まれる。

3.1 PIP3A4

データエレメントまたは データエレメントブロック名	変更理由
countryOfOrigin.GlobalCountryCode	異なる国で製造される同一の部品を扱うため、カーディナリティが、0..1 から 0..n に変更された
requestedEvent.TransportationEvent	JIT の業務において、納入の時間（何時までに、何時以降、何時から何時の間）を指定する場合に対応するため、requestedEvent.TransportationEvent のブロックに、時間用のデータエレメントが追加された

3.2 PIP3A7

データエレメントまたは データエレメントブロック名	変更理由
countryOfOrigin.GlobalCountryCode	異なる国で製造される同一の部品を扱うため、カーディナリティが、0..1 から 0..n に変更された
requestedEvent.TransportationEvent	JIT の業務において、納入の時間（何時までに、何時以降、何時から何時の間）を指定する場合に対応するため、requestedEvent.TransportationEvent のブロックに、時間用のデータエレメントが追加された

3.3 PIP3A8

データエレメントまたは データエレメントブロック名	変更理由
countryOfOrigin.GlobalCountryCode	異なる国で製造される同一の部品を扱うため、カーディナリティが、0..1 から 0..n に変更された
requestedEvent.TransportationEvent	JIT の業務において、納入の時間（何時までに、何時以降、何時から何時の間）を指定する場合に対応するため、requestedEvent.TransportationEvent のブロックに、時間用のデータエレメントが追加された

3.4 PIP3A9

データエレメントまたは データエレメントブロック名	変更理由
なし	今回のバリデーションにおいての変更はなし。

3.5 PIP3C7

データエレメントまたは	変更理由
-------------	------

データエレメントブロック名	
なし	今回のバリデーションにおいての変更はなし。

3.6 PIP4A1

データエレメントまたは データエレメントブロック名	変更理由
なし	今回のバリデーションにおいての変更はなし。

3.7 PIP4A3

データエレメントまたは データエレメントブロック名	変更理由
ForecastProductInventory	最小在庫数量、最大在庫数量、利用可能在庫数量等、複数の在庫情報を設定するため、カーディナリティが、0..1 から 0..n に変更された

3.8 PIP4A4

データエレメントまたは データエレメントブロック名	変更理由
なし	今回のバリデーションにおいての変更はなし。

3.9 PIP4A5

データエレメントまたは データエレメントブロック名	変更理由
なし	今回のバリデーションにおいての変更はなし。

3.10 PIP4B2

データエレメントまたは データエレメントブロック名	変更理由
なし	今回のバリデーションにおいての変更はなし。

3.11 PIP4C1

データエレメントまたは データエレメントブロック名	変更理由
なし	今回のバリデーションにおいての変更はなし。

4. 検証によって学んだこと(Lessons Learned)

4.1 納期時刻を入力するフィールドの追加について

納期に関して、JIT業務等においては、日付だけではなく時刻を扱う場合が発生するが、従来の3A4、3A7、3A8では、納期時刻を扱うことが出来なかった。そのため、納期日付を設定する `requestedEvent.TransportationEvent` に納期時刻を設定できるエレメントの追加を要請し受諾された。(3A4, 3A7, 3A8)

なお、納期時刻にもいくつかの定義が考えられるが(何時までに納入、何時以降に納入、何時から何時の間に納入等)、この定義をメッセージガイドラインのCodeとして定義することについては有用ではないと判断した。そのため、設定する時刻がどのような納期時刻を表すものとするかはTPAで決めるという運用にした。

4.2 異なる国で製造される同一部品の表現

部品製造拠点の海外への移転等で、同一の部品が複数の国で製造されるケースがあり、そのような部品について、一メッセージで扱うことが考えられたが、従来の3A4、3A7、3A8では、原産国情報を設定する `countryOfOrigin.GlobalCountryCode` のカーディナリティが0..1であったため対応出来なかった。そのため、カーディナリティが0..nとなるようPIPの変更を要望し受諾された。(3A4, 3A7, 3A8)

4.3 フォーキャスト期間ごとに設定される在庫関連情報について

フォーキャスト期間ごとに設定される在庫関連情報は、`ForecastProductInventory` のカーディナリティが0..1であったため、`GlobalForecastInventoryTypeCode` から最大・最小在庫や手持ち在庫、また利用可能在庫などのさまざまな種類の在庫情報を複数回設定することができなかった。よって、カーディナリティが0..nとなるようPIPの変更を要望し受諾された。(4A3)

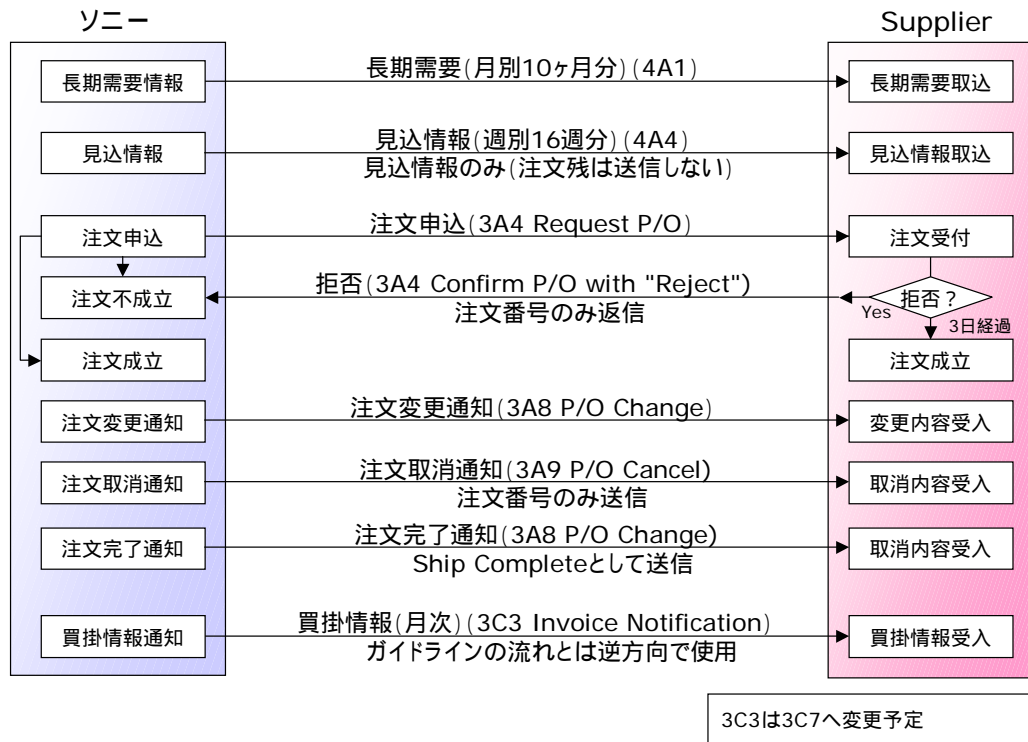
5. 用語集(Glossary)

用語	説明
一括納入指示	納期と納入指示数量(=注文数量)を提示する情報である。
分割納入指示	納期が分割の場合、それぞれの納入指示数量と納期を提示する情報である。
TPA	Trading Partner Agreement の略。取引パートナー契約。 ロゼッタネット標準に準拠したネットワークアプリケーション上で、PIP を 実行するために必要な技術的側面と報告義務に関する合意事項。

Appendix

1 ビジネスモデル事例：ソニー株式会社

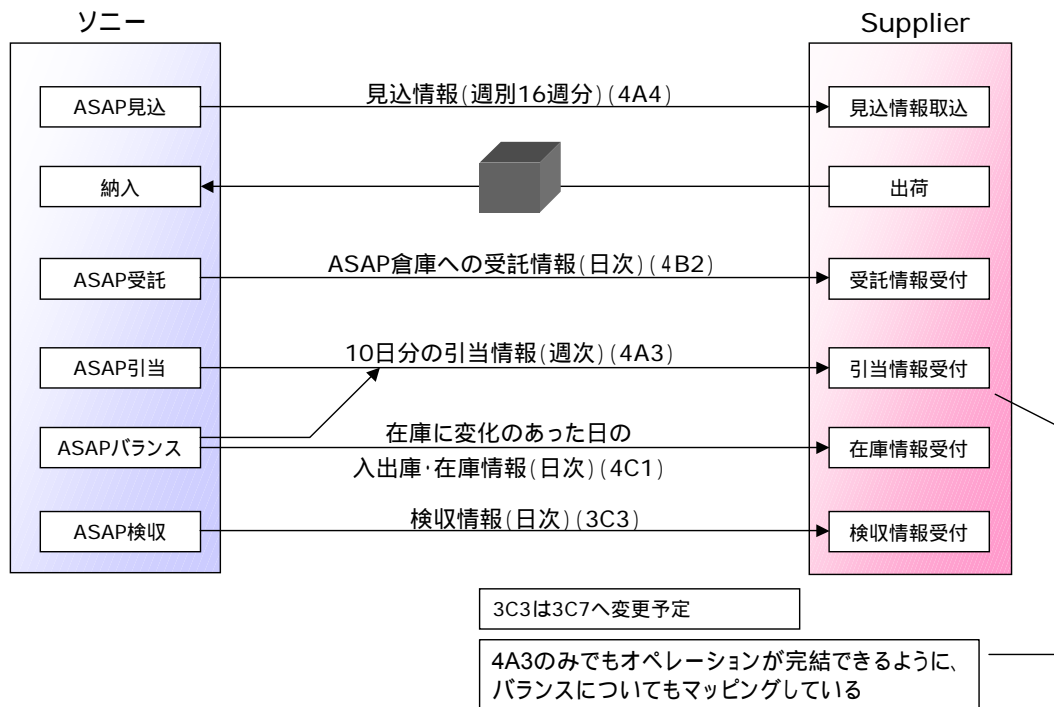
1.1 一般部品フロー



一般的な納期発注のプロセスを図式化した。特徴は以下の通り。

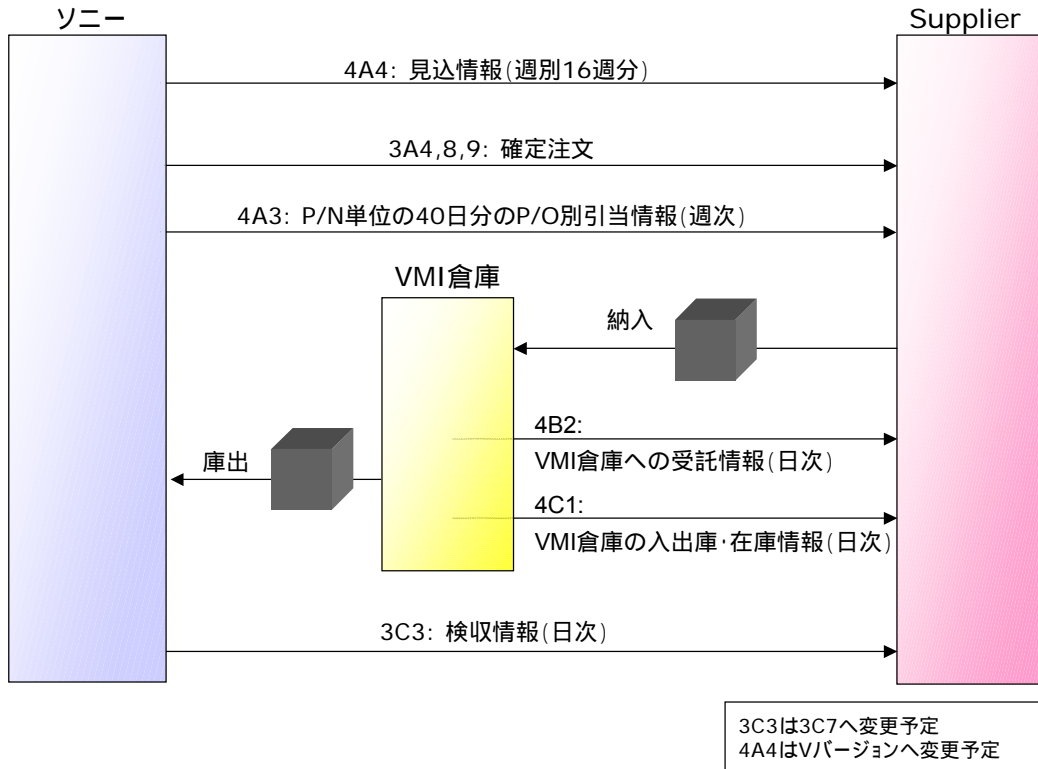
1. 先行き 10 ヶ月の長期需要予測情報および 16 週分の見込情報の提示により、サプライヤの生産計画を立案してもらう。
2. 注文については、部品違い等の誤発注について自動的にシステムへ反映し発注担当者へ通知できるようになっている。このような通知を自動的に行うために 3A4Confirmation については Reject のみを意味のある情報として定義している。

1.2 ASAP 情報フロー



ASAP (Accessible Stock of in-Advance-Shipped Parts)とは、ソニーにおける取引先資産の預託在庫管理オペレーションの名称である。ソニーが提示する先行きの使用計画をベースに、サプライヤの自主判断で一定数量の部品在庫をソニーの事業所倉庫等で保管し、ソニーが必要な時に必要な数量だけ使用する購入システムである。ソニー事業所は、注文書は発行せず、必要な時に必要な数量だけ使用して検収を行うことができる。サプライヤにおけるメリットは、納品計画策定の自由度向上、納入回数が減ることによる物流コストの削減、注文が発行されないため受注管理工数の削減、注文変更に対する柔軟性の向上があげられる。

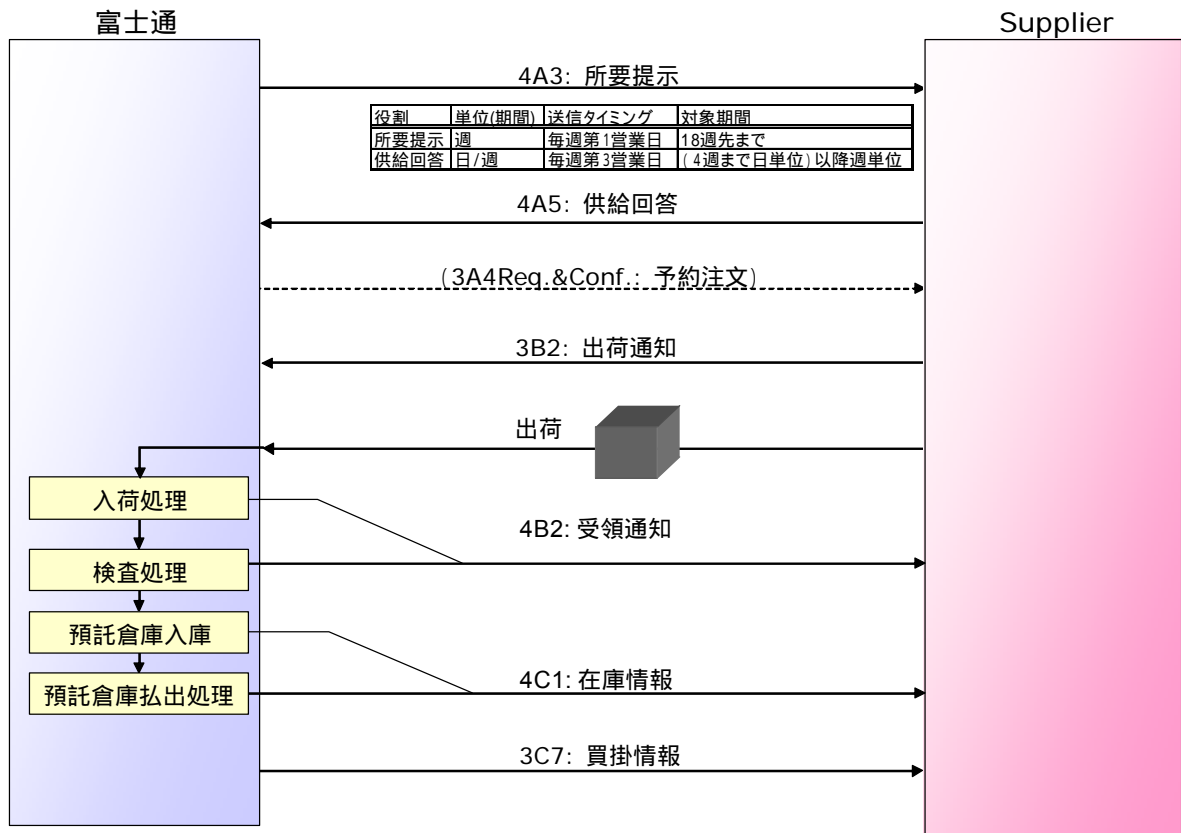
1.3 VMI 情報フロー



VMI (Vendor Managed Inventory) は、事業所の所要に基づき、サプライヤが VMI 倉庫に必要な在庫数を自主補給する調達方式である。上記 ASAP との違いは、外部の倉庫および倉庫管理業者を利用し、さらに注文を発行することである。ASAP では主に汎用電気部品を対象としているのに対し、VMI では専用品やキーパーツを対象としているため、注文書による引き取り保証を行っている点異なる。

2 ビジネスモデル事例：富士通株式会社

2.1 預託標準型業務モデル

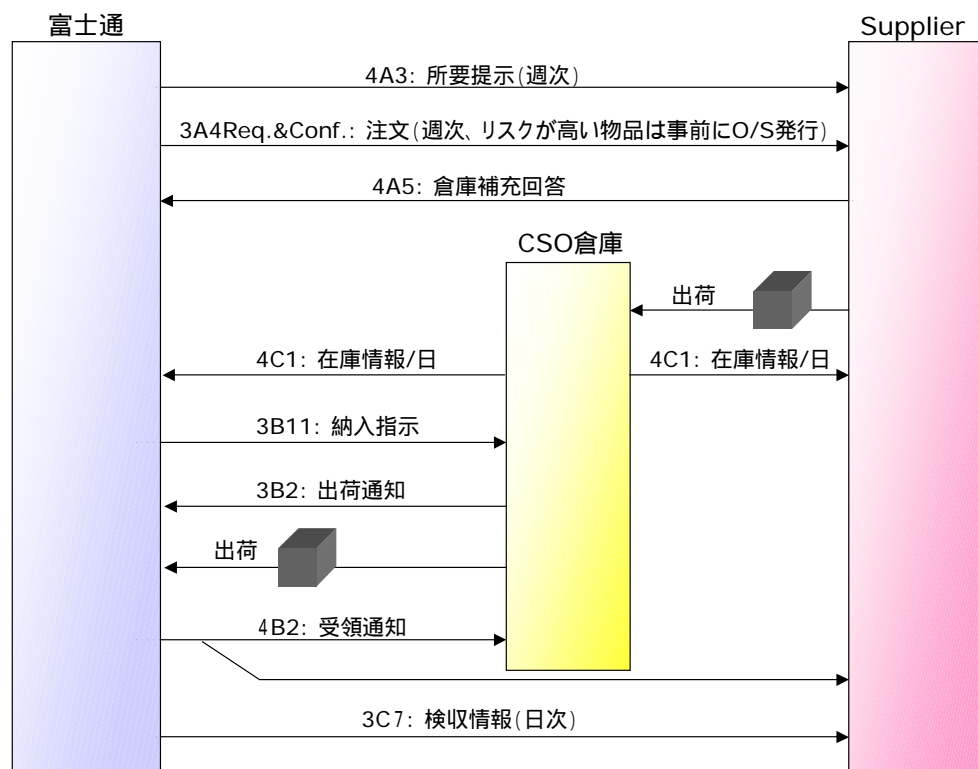


預託標準型業務モデルを図式化した。

基本的に汎用品のみを考慮しており、預託倉庫内の物品は発注者の資産だが検収手番の都合により入庫前に検査を行っている。各プロセスにおける特徴は以下の通り。

- ・ 所要提示/供給回答
所要算出時と供給回答時のタイムラグを把握するために、所要数の他に在庫数・入荷/検収情報を合わせて記入している（預託倉庫への納入調整は受注者が行う）。
- ・ （予約注文）
顧客仕様品などの製造手番の長い製品は予約注文を発行する（確定注文は発行しない）。
- ・ 出荷/受領
受注者は所要・在庫をもとに倉庫へ物品を出荷する。倉庫では入庫状況を発注者へ通知する。（出庫後検査では検査手番がネックになるため入庫前に検査を行っている）
- ・ 倉庫払出
発注者は倉庫から必要分を随時払い出す。払い出した事は受注者へ通知する。
- ・ 支払
発注者は検収した分を支払う。

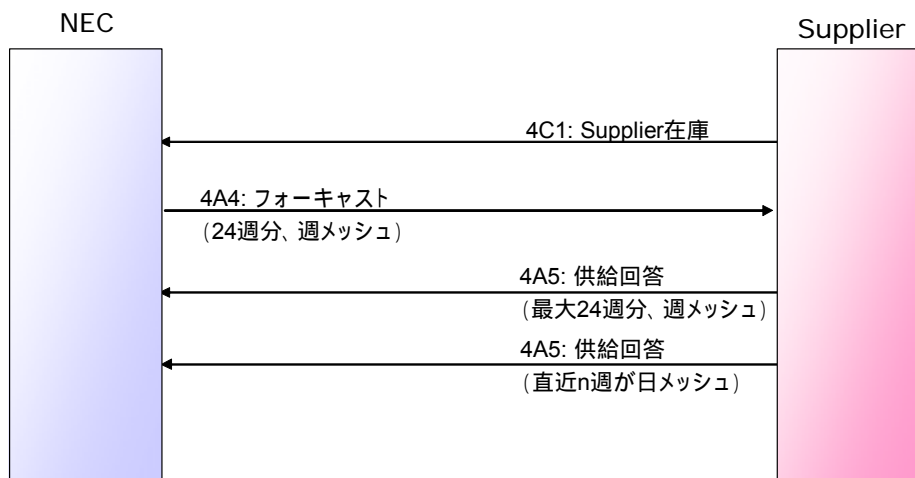
2.2 CSO 業務モデル



CSO (Collaborative Stock Operation)とは、富士通の所要提示(注文)に基づき、取引先が自社または第3者倉庫(取引先が契約)に一定量の在庫を保有し、富士通の納入指示により搬入する仕組みの名称である。預託標準型モデルが基本的に汎用品のみを考慮しているのに対し、CSOモデルでは汎用品以外にカスタム品の適用を考慮している。各プロセスにおける特徴は以下の通り。

- ・ 所要提示/供給回答
所要算出時と供給回答時のタイムラグを把握するために、所要数の他に在庫数・入荷/検収情報を合わせて記入している。
- ・ 予約・確定注文
カスタム性の高い物品について、製造手番の長い製品は予約注文を発行する。確定注文は必ず発行する (VMI 資産は発注者の資産であるため)。
- ・ 出荷/受領
受注者は所要・在庫をもとに倉庫へ物品を出荷する。倉庫では在庫状況を発注者へ通知する。
- ・ 納入指示・倉庫払出
発注者が確定注文を発行した分について、発注者が倉庫に出荷指示を発行する (現在は前日夜間に発行している)。
- ・ 支払
発注者は検収した分を支払う。

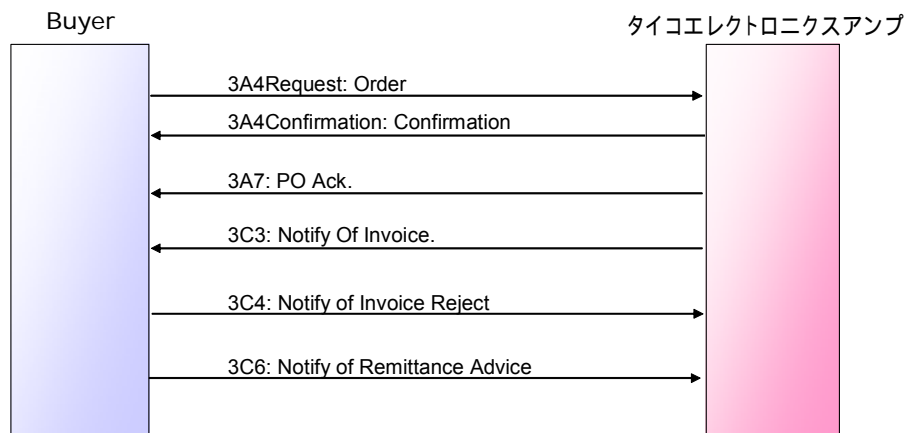
3 ビジネスモデル事例：日本電気株式会社
3.1 パソコン事業での活用フェーズ



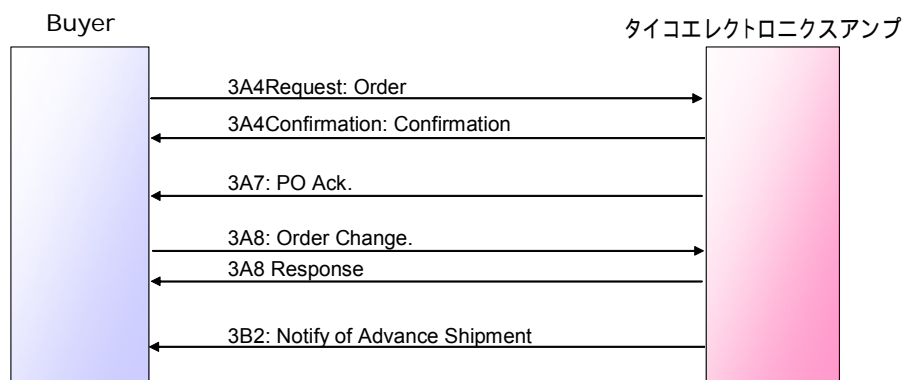
先行き 24 週の需要予測情報を提示する。直近 3 週分については日メッシュで提示し、これは確定所要を意味する。サプライヤはこの需要予測情報に対して供給回答を行い、需要予測と同じく、直近分については日メッシュで回答し、これは納期確約を意味する。

4 ビジネスモデル事例： タイコエレクトロニクスアンプ

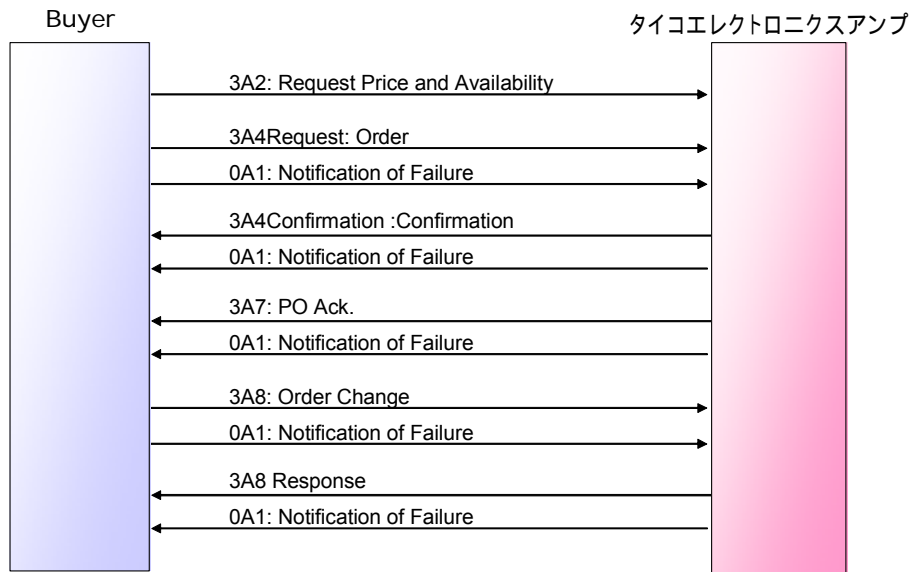
4.1 コンピューターメーカーとの実装例(米国)



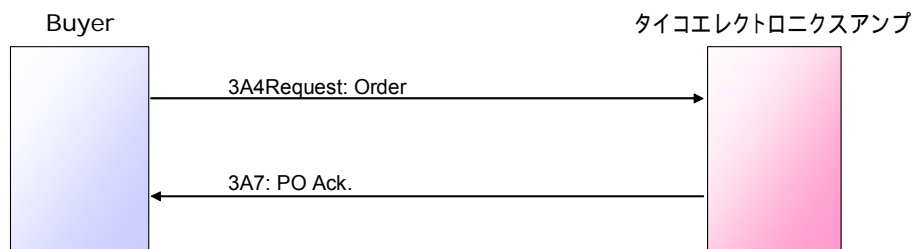
4.2 コンピューターメーカーとの実装例(米国)



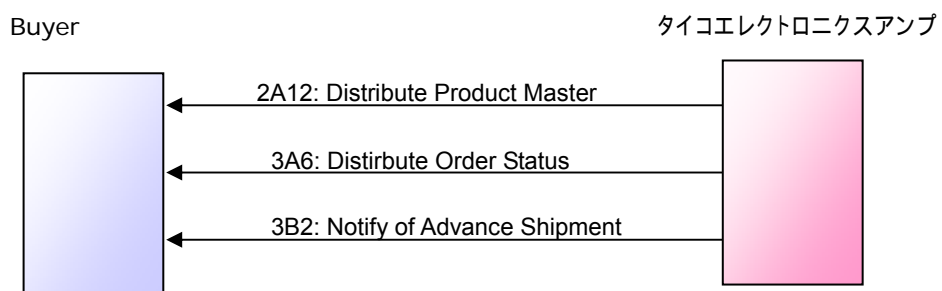
4.3 電子部品代理店との実装例(米国)



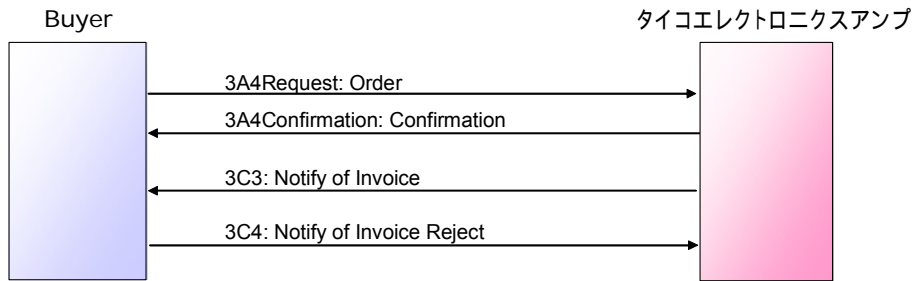
4.4 マザーボードメーカーとの実装例(台湾)



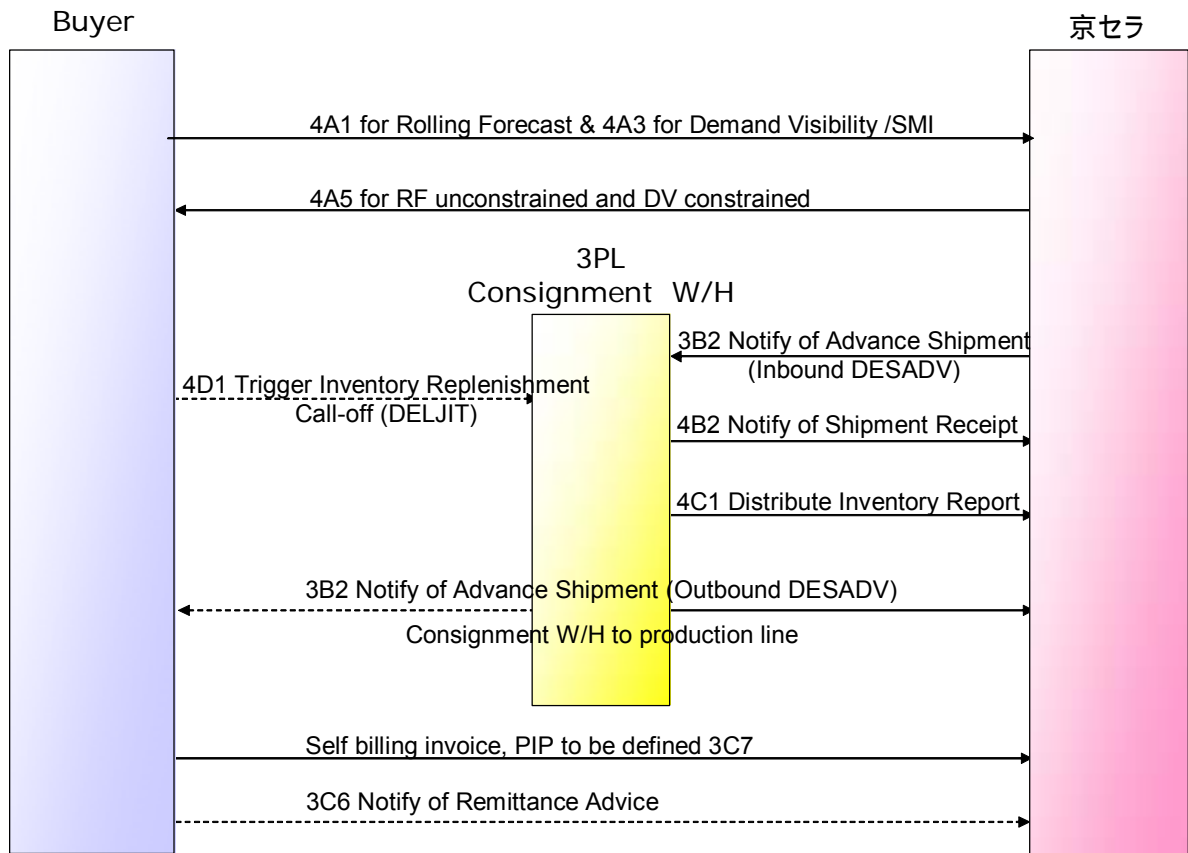
4.5 通信機器との実装例(米国)



4.6 半導体メーカーの実装例(米国)



5 ビジネスモデル事例：京セラ株式会社



3PL を利用した Consignment モデルを図式化した。特徴は以下の通り。

- ・ 12ヶ月分の Rolling Forecast を PIP4A1 でやりとりし、サプライヤはそれをもとに生産能力・長期生産計画をたてる。
- ・ 14～18週分の Demand Visibility(所要情報)と、在庫情報・受入情報を PIP4A3 でやりとりし、サプライヤはそれをもとに Consignment Warehouse への綿密な供給計画を立て、出荷する。
- ・ 倉庫の管理は 3PL がおこなう。
- ・ Consignment Warehouse の製品は、サプライヤ側の資産。
- ・ バイヤーは必要な時に 3PL が管理する Consignment Warehouse から製品を調達し、Self Billing Invoice を発行する。